

表 4.6-8 (3) 確認種一覧

確認種				評価書					事後調査				
目名	科名	種名	学名	冬季1	春季	夏季	秋季	冬季2	冬季	春季	夏季	秋季	
スズメ	アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	○					○				
		カワラヒワ	<i>Carduelis sinica</i>	○	○	○	○		○	○	○		
		マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	○									
		ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>				○						
		シメ※2	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>						○				
	ハタオトリ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ムクトリ	ホシムクトリ	<i>Sturnus vulgaris</i>				○						
		ムクトリ	<i>Sturnus cineraceus</i>	○	○	○	○		○	○	○	○	
	カラス	オナガ※2	<i>Cyanopica cyana</i>								○		
		コクマルガラス	<i>Corvus dauuricus</i>				○		○				
		ミヤマガラス	<i>Corvus frugilegus</i>	○			○	○	○				
		ハシホソガラス	<i>Corvus corone</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13 目	29 科	74 種	-	35 種	28 種	30 種	33 種	17 種	37 種	25 種	25 種	26 種	

※1:種名は河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2016 年)に準拠した。

※2:評価書では現地確認がなく、事後調査で新たに確認された種

イ. 注目すべき種等の分布、生息環境、個体数等

事後調査で確認した種を対象に、表 4.6-9 に示す選定基準に該当する種を注目すべき種として選定した。なお、選定基準の一部は、評価書公告以降に見直されている。新たに見直された基準は、レッドデータブック 2014（環境省）、宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016（宮城県）である。

本調査では、評価書時において注目すべき種としていた種以外に、見直された選定基準に該当する種についても対象とした。

表 4.6-9 注目すべき種の選定基準

番号	選定基準	
I	『文化財保護法』（1950年 法律第214号）	特：国指定特別天然記念物 天：国指定天然記念物
II	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』（1992年 法律第75号）	内：国内希少野生動植物種 際：国際希少野生動植物種
III	『レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物-2 鳥類』（2014年 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
IV	『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016』（2016年 宮城県）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 要：要注目種(要)
V	『平成 22 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書』（2011年 仙台市）において「学術上重要な動物種」とされる種及び「減少種」の A ランク種	【学術上重要な種】 1:仙台市においてもともと希産あるいは希少である種。あるいは分布が限定されている種 2:仙台市が分布の北限、南限となっている種。あるいは隔離分布となっている種 3:仙台市が模式産地(タイプロカリティー)となっている種 4:その他、学術上重要な種 【減少種】 A:現在ほとんど見ることができない種

※Vの資料では、「学術上重要な動物種」、「減少種」、「環境指標種」「ふれあい種」に区分されている。このうち「学術上重要な動物種」と、「減少種」の中でも以前に比べて減少傾向にあり現在ほとんど見ることができず特に希と言われている A ランクの種を選定基準とするが、「減少種」のうち B・C ランクの種及び“\*”（普通に見られる）、“/”（生息・生育しない可能性が非常に大きい）、「環境指標種・ふれあい種」については選定基準としない。

※評価書においては、平成 6 年度自然環境基礎調査、平成 15 年度自然環境に関する基礎調査を選定資料として挙げたが、平成 22 年度自然環境に関する基礎調査を最新の評価すべき資料とした。

表 4.6-10 に評価書時の調査及び事後調査で確認した注目すべき種を示す。事後調査で確認されたものは 10 種であった。表 4.6-11(1)～(18)に種ごとの確認状況、図 4.6-10 に確認位置を示す。

表 4.6-10 評価書で予測対象とした注目すべき種

目名	科名	種名	注目種としての位置付け※1	事後調査での確認位置※2								
				事業実施区域内				事業実施区域外				
				冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	
コウノトリ	サギ	アマサギ※3	○	※注目すべき種の保護のため非公開とした。								
		チュウサギ	○									
		ヨシコイ※4	○									
		コサギ	○									
カモ	カモ	マカシ※3	○									
		コハクチョウ	●									
タカ	タカ	ミサコ※3	○									
		オオタカ	○									
		ハイタカ※3	○									
	ハヤブサ	ハヤブサ	○									
		コチョウゲンボウ	●									
		チョウゲンボウ	●									
カッコウ	カッコウ	カッコウ※3	●									
フクロウ	フクロウ	コミスク※3	○									
フッポウソウ	カリセミ	カリセミ※3	●									
スズメ	セキレイ	セグロセキレイ	○									
		ウグイス	セッカ									●
		ホオジロ	アオジ									●
7 目	10 科	18 種	-									

※1:欄内の「○」は表 4.6-9 において、注目すべき種として該当する種、「●」は評価書時の選定基準で注目すべき種に該当していた種

※2:欄内「○」は確認、「-」は未確認

※3:評価書では現地確認されたが、事後調査で確認されなかった種

※4:評価書では既往調査（方法書に対する市長意見を踏まえ、隣接する「仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書（仙台市荒井東土地区画整理組合 2010）」の調査結果を引用したもので確認されたが、事後調査で確認されなかった種

表 4.6-11(1) 注目すべき種の確認状況(アマサギ)

種名	アマサギ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし

表 4.6-11(2) 注目すべき種の確認状況(チュウサギ)

種名	チュウサギ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	9 地点で確認
	夏季	9 地点で確認
	秋季	1 地点で確認
	[redacted] で確認した。 [redacted] 確認個体の大半は [redacted] で採餌を行っていた。	

表 4.6-11(3) 注目すべき種の確認状況(ヨシゴイ)

種名	ヨシゴイ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし

表 4.6-11(4) 注目すべき種の確認状況(コサギ)

種名	コサギ	
現地調査 における 確認状況	冬季	1 地点で確認
	春季	確認なし
	夏季	3 地点で確認
	秋季	1 地点で確認
	冬季に [redacted] 1 個体、夏季に [redacted] [redacted] 5 個体、秋季に [redacted] 1 個体を確認した。 [redacted] で活動しており、採餌及び休息を行っていた。	

表 4.6-11(5) 注目すべき種の確認状況(マガン)

種名	マガン	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし

表 4.6-11(6) 注目すべき種の確認状況(コハクチョウ)

種名	コハクチョウ	
現地調査 における 確認状況	冬季	2 地点で確認
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし
	冬季に [ ] で確認し、 [ ] では 252 個体が休息しており、 [ ] では 573 個体が採餌、休息していた。 [ ]	

表 4.6-11(7) 注目すべき種の確認状況(ミサゴ)

種名	ミサゴ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし

表 4.6-11(8) 注目すべき種の確認状況(オオタカ)

種名	オオタカ	
現地調査 における 確認状況	冬季	1 地点で確認
	春季	確認なし
	夏季	1 地点で確認
	秋季	確認なし
	冬季に [ ] で鳴きながら誇示行動を行う成鳥1個体を確認した。繁殖を指標する行動であったが、その後の確認がなく、なわばりの外郭で行った行動と思われる。 夏季に [ ] で、水路沿いを飛翔する1個体を確認した。採餌飛翔と思われる。	

表 4.6-11(9) 注目すべき種の確認状況(ハイタカ)

種名	ハイタカ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし

表 4.6-11(10) 注目すべき種の確認状況(ハヤブサ)

種名	ハヤブサ	
現地調査 における 確認状況	冬季	2 地点で確認
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし
	冬季に	で探餌を行う 1 個体と、 飛行する 1 個体を確認した。

表 4.6-11(11) 注目すべき種の確認状況(コチョウゲンボウ)

種名	コチョウゲンボウ	
現地調査 における 確認状況	冬季	1 地点で確認
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし
		で、スズメを捕食している 1 個体を確認した。

表 4.6-11(12) 注目すべき種の確認状況(チョウゲンボウ)

種名	チョウゲンボウ	
現地調査 における 確認状況	冬季	4 地点で確認
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	2 地点で確認
	冬季に	へ通過する1個体と、 でハタネズミを捕食する1個体。 で飛行する1個体。 で探餌を行う1個体を確認した。 秋季には を飛行する1個体と、 にとまる1個体を確認した。

表 4. 6-11 (13) 注目すべき種の確認状況(カッコウ)

種名	カッコウ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし

表 4. 6-11 (14) 注目すべき種の確認状況(コミミズク)

種名	コミミズク	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし

表 4. 6-11 (15) 注目すべき種の確認状況(カワセミ)

種名	カワセミ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし

表 4. 6-11 (16) 注目すべき種の確認状況(セグロセキレイ)

種名	セグロセキレイ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	1 地点で確認
		で1個体を確認した。

表 4. 6-11 (17) 注目すべき種の確認状況(セッカ)

種名	セッカ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	確認なし
	夏季	2 地点で確認
	秋季	確認なし
	夏季に	で確認した。 で移動をする1個体、 で囀る1個体を確認した。

表 4. 6-11(18) 注目すべき種の確認状況(アオジ)

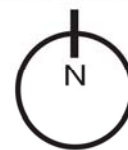
種名	アオジ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	1 地点で確認
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし
	春季に	で 1 個体の鳴き声を確認した。



※注目すべき種の保護のため非公開とした。

凡 例

-  事業実施区域
-  調査地域及び予測地域
-  確認位置(冬季)
-  確認位置(春季)
-  確認位置(夏季)
-  確認位置(秋季)



縮尺 1/25,000



図 4.6-10 注目すべき種の確認位置図（鳥類）：事後調査

※注目すべき種の保護のため非公開とした。

図 4.6-11 注目すべき種の確認位置図（鳥類：冬季）：評価書

※注目すべき種の保護のため非公開とした。

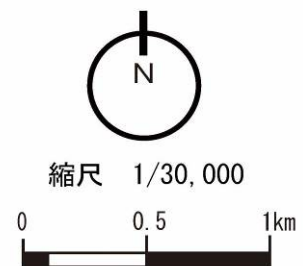


図 4.6-12 注目すべき種の確認位置図（鳥類：春季）：評価書

※注目すべき種の保護のため非公開とした。

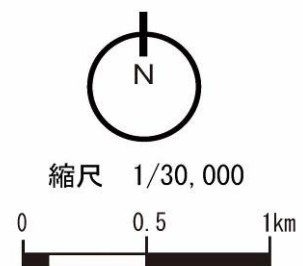


図 4.6-13 注目すべき種の確認位置図（鳥類：夏季）：評価書

※注目すべき種の保護のため非公開とした。

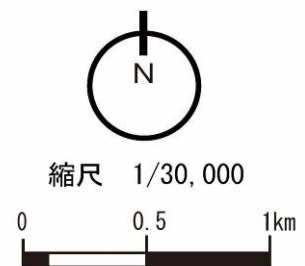


図 4.6-14 注目すべき種の確認位置図（鳥類：秋季）：評価書

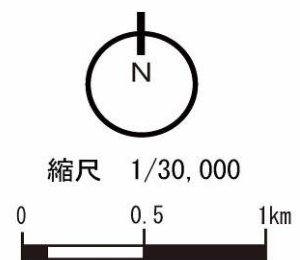
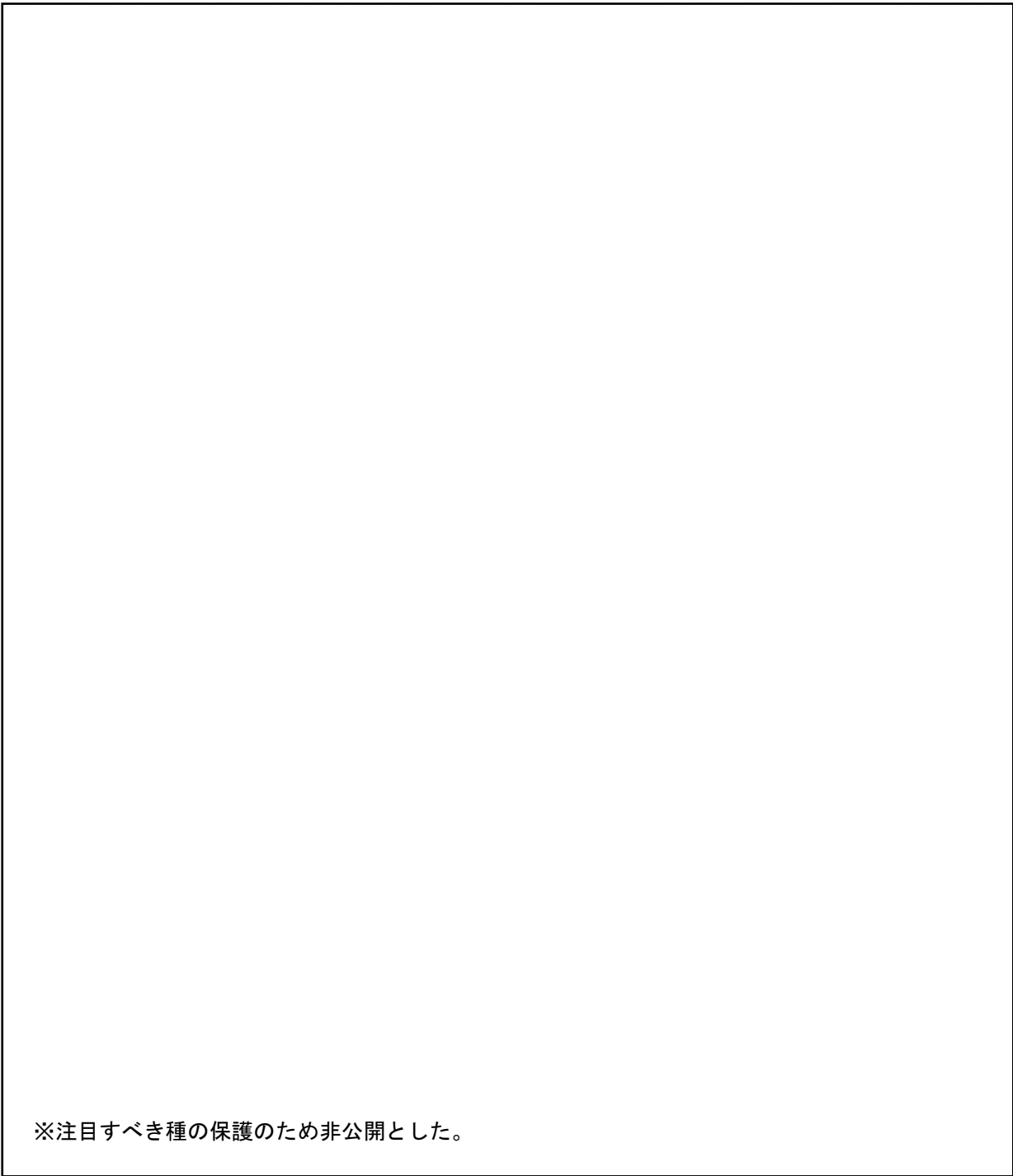


図 4.6-15 注目すべき種の確認位置図  
(鳥類：ミサゴ・ハイタカ・オオタカ)：評価書

③爬虫類

ア. 確認種

事後調査において爬虫類は確認されなかった。

表 4.6-12 確認種一覧

確認種				評価書			事後調査		
目名	科名	種名	学名	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季
有鱗	ナミヘビ	シマヘビ	<i>Elaphequadrivirgata</i>	○					
1目	1科	1種	-	1種	0種	0種	0種	0種	0種

※1:種名は河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2016 年)に準拠した。

イ. 注目すべき種等の分布、生息環境及び個体数等

事後調査において爬虫類は確認されなかった。

④両生類

ア. 確認種

事後調査において確認された両生類は、1目2科3種である。

表 4.6-13 確認種一覧

確認種				評価書			事後調査		
目名	科名	種名	学名	春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季
無尾	アマガエル	ニホンアマガエル	<i>Hyla japonica</i>		○	○	○	○	○
	アカガエル	ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>	○	○	○	○	○	○
		トウキョウタマカガエル※2	<i>Pelophylax porosus porosus</i>				○		
1目	2科	3種	-	1種	2種	2種	3種	2種	2種

※1:種名は河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2016 年)に準拠した。

※2:評価書では現地確認がなく、事後調査で新たに確認された種

イ. 注目すべき種等の分布、生息環境及び個体数等

事後調査で確認した種を対象に、表 4.6-14 に示す選定基準に該当する種を注目すべき種として選定した。なお、選定基準の一部は、評価書公告以降に見直されている。新たに見直された基準は、レッドデータブック 2014（環境省）、宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016（宮城県）である。

本調査では、評価書時において注目すべき種としていた種以外に、見直された選定基準に該当する種についても対象とした。

表 4.6-14 注目すべき種の選定基準

番号	選定基準	
I	『文化財保護法』（1950年 法律第214号）	特：国指定特別天然記念物 天：国指定天然記念物
II	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』（1992年 法律第75号）	内：国内希少野生動植物種 際：国際希少野生動植物種
III	『レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 3 爬虫類・両生類』（2014年 環境省 自然環境局野生生物課希少種保全推進室）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
IV	『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016』（宮城県、2016年）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 要：要注目種
V	『平成 22 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書』（2011年 仙台市）において「学術上重要な動物種」とされる種及び「減少種」の A ランク種	【学術上重要な種】 1: 仙台市においてもともと希産あるいは希少である種。あるいは分布が限定されている種 2: 仙台市が分布の北限、南限となっている種。あるいは隔離分布となっている種 3: 仙台市が模式産地(タイプロカリティ)となっている種 4: その他、学術上重要な種 【減少種】 A: 現在ほとんど見ることができない種

※1: Vの資料では、「学術上重要な動物種」、「減少種」、「環境指標種」「ふれあい種」に区分されている。このうち「学術上重要な動物種」と、「減少種」の中でも以前に比べて減少傾向にあり現在ほとんど見ることができず特に希とされている A ランクの種を選定基準とするが、「減少種」のうち B・C ランクの種及び“\*”（普通に見られる）、“/”（生息・生育しない可能性が非常に大きい）、「環境指標種・ふれあい種」については選定基準としない。

※2: 評価書においては、平成 6 年度自然環境基礎調査、平成 15 年度自然環境に関する基礎調査を選定資料として挙げたが、平成 22 年度自然環境に関する基礎調査を最新の評価すべき資料とした。



表 4.6-15 に評価書時の調査及び事後調査で確認した注目すべき種を示す。事後調査で確認されたものは2種であった。表 4.6-16(1)～(2)に種ごとの確認状況、図 4.6-16 に確認位置を示す。

表 4.6-15 評価書で予測対象とした注目すべき種

科名	種名	注目種としての位置付け※1	事後調査での確認位置※2					
			事業実施区域内			事業実施区域外		
			春季	夏季	秋季	春季	夏季	秋季
アカガエル	ニホンアカガエル	●	※注目すべき種の保護のため 非公開とした。					
	トウキョウダルマガエル※3	○						
1科	2種	-						

※1: 欄内の「○」は表 4.6-14 において、注目すべき種として該当する種、「●」は評価書時の選定基準で注目すべき種に該当していた種

※2: 欄内「○」は確認、「-」は未確認

※3: 評価書では現地確認がなく、事後調査で新たに確認された種

表 4.6-16(1) 注目すべき種の確認状況(ニホンアカガエル)

種名	ニホンアカガエル	
現地調査 における 確認状況	春季	9 地点で確認
	夏季	6 地点で確認
	秋季	5 地点で確認
春季調査では、[ ]において、成体を1個体、幼生・卵塊を多数確認した。夏季調査では、[ ]において、成体を多数、幼体を1個体確認した。秋季調査では、[ ]において、成体を多数確認した。		






表 4.6-16(2) 注目すべき種の確認状況(トウキョウダルマガエル)

種名	トウキョウダルマガエル	
現地調査 における 確認状況	春季	1 地点で確認
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし
春季調査において、[ ]で、成体(鳴き声)を1個体確認した。		



※注目すべき種の保護のため非公開とした。

凡 例

-  事業実施区域
-  調査地域及び予測地域
-  確認位置(春季)
-  確認位置(夏季)
-  確認位置(秋季)

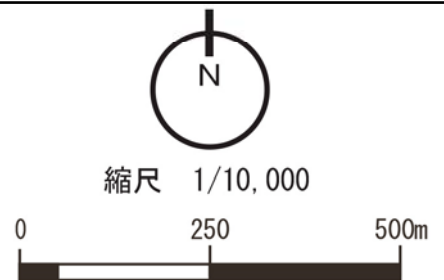


図 4.6-16 注目すべき種の確認位置図（両生類）：事後調査



※注目すべき種の保護のため非公開とした。

凡 例

-  事業実施区域
-  調査地域及び予測地域
-  確認位置（春季）
-  確認位置（夏季）
-  確認位置（秋季）
-  浸水区域



※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会  
災害対応本部津波被災マップ(2011.4.9)」を基に作成

図 4.6-17 注目すべき種の確認位置図（両生類）：評価書

⑤昆虫類

ア. 種組成

事後調査において確認された昆虫類は、12 目 96 科 248 種である。なお、確認種については、資料編に示すとおりである。

表 4.6-17 昆虫類目別確認種数

目名	評価書		事後調査	
	科数	種数	科数	種数
トビムシ	2 科	2 種		
カゲロウ(蜉蝣)			1 科	1 種
トンボ(蜻蛉)	2 科	5 種	4 科	9 種
カマキリ	1 科	2 種	1 科	1 種
ハサミムシ(革翅)			2 科	3 種
バッタ(直翅)	8 科	15 種	9 科	15 種
カメムシ(半翅)	12 科	23 種	14 科	27 種
アミメカゲロウ(脈翅)	1 科	2 種	1 科	2 種
トビケラ(毛翅)			2 科	2 種
チョウ(鱗翅)	13 科	32 種	11 科	36 種
ハエ(双翅)	26 科	72 種	23 科	50 種
コウチュウ(鞘翅)	15 科	68 種	15 科	76 種
ハチ(膜翅)	14 科	29 種	13 科	26 種
13 目	94 科	250 種	96 科	248 種

※表中の空欄は確認がなかったことを示す

イ. 注目すべき種等の分布、生息環境及び個体数等

事後調査で確認した種を対象に、表 4.6-18 に示す選定基準に該当する種を注目すべき種として選定した。なお、選定基準の一部は、評価書公告以降に見直されている。新たに見直された基準は、レッドデータブック 2014 (環境省)、宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016 (宮城県) である。

本調査では、評価書時において注目すべき種としていた種以外に、見直された選定基準に該当する種についても対象とした。

表 4.6-18 注目すべき種の選定基準

番号	選定基準	
I	『文化財保護法』(1950年 法律第214号)	特：国指定特別天然記念物 天：国指定天然記念物
II	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』(1992年 法律第75号)	内：国内希少野生動植物種 際：国際希少野生動植物種
III	『レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 5 昆虫類』 (2015年 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
IV	『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016』(宮城県、2016年)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 要：要注目種
V	『平成 22 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書』(2011年 仙台市)において「学術上重要な動物種」とされる種及び「減少種」の A ランク種	【学術上重要な種】 1:仙台市においてもともと希産あるいは希少である種。あるいは分布が限定されている種 2:仙台市が分布の北限、南限となっている種。あるいは隔離分布となっている種 3:仙台市が模式産地(タイプロカリティ)となっている種 4:その他、学術上重要な種 【減少種】 A:現在ほとんど見ることができない種

※1:Vの資料では、「学術上重要な動物種」、「減少種」、「環境指標種」「ふれあい種」に区別されている。このうち「学術上重要な動物種」と、「減少種」の中でも以前に比べて減少傾向にあり現在ほとんど見ることができず特に希と言われている A ランクの種を選定基準とするが、「減少種」のうち B・C ランクの種及び“\*”（普通に見られる）、“/”（生息・生育しない可能性が非常に大きい）、「環境指標種・ふれあい種」については選定基準としない。  
 ※2:評価書においては、平成 6 年度自然環境基礎調査、平成 15 年度自然環境に関する基礎調査を選定資料として挙げたが、平成 22 年度自然環境に関する基礎調査を最新の評価すべき資料とした。

表 4.6-19 に評価書時の調査及び事後調査で確認した注目すべき種を示す。事後調査で確認されたものは 4 種であった。表 4.6-20(1)～(7)に確認状況、図 4.6-18 に確認位置を示す。

表 4.6-19 評価書で予測対象とした注目すべき種

目名	科名	種名	注目種としての位置付け※1	事後調査での確認位置※2					
				事業実施区域内			事業実施区域内		
				春季	春季	春季	春季	春季	春季
カメムシ	ナガカメムシ	ヒメオオメナガカメムシ	●	※注目すべき種の保護のため非公開とした。					
コウチュウ	オサムシ	オオホシボシゴミムシ※3	●						
		ヤマトトックリゴミムシ※3	○						
		キンナガゴミムシ	●						
		ヨツモンコミスギワゴミムシ	●						
	ガムシ	コガムシ※4	○						
	ツチハンミョウ	マメハンミョウ※3	●						
2 目	4 科	7 種	-						

※1: 欄内の「○」は表 4.6-18 において、注目すべき種として該当する種、「●」は評価書時の選定基準で注目すべき種に該当していた種

※2: 欄内「○」は確認、「-」は未確認

※3: 評価書では既往調査(方法書に対する市長意見を踏まえ、隣接する「仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書(仙台市荒井東土地区画整理組合 2010)」の調査結果を引用したもの)で確認されたが、事後調査で確認されなかった種

※4: 評価書では注目すべき種ではなかったが、表 4.6-18 において新たに選定された種

表 4.6-20(1) 注目すべき種の確認状況(ヒメオオメナガカメムシ)

種名	ヒメオオメナガカメムシ	
現地調査 における 確認状況	春季	確認なし
	夏季	2 地点で確認
	秋季	2 地点で確認
[ ] の草地 1 地点で夏季に 3 個体、[ ] の草地 3 地点で夏季に 8 個体、秋季に 2 個体を確認した。		

表 4.6-20(2) 注目すべき種の確認状況(オオホシボシゴミムシ)

種名	オオホシボシゴミムシ	
現地調査 における 確認状況	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし

表 4.6-20(3) 注目すべき種の確認状況(ヤマトトックリゴミムシ)

種名	ヤマトトックリゴミムシ	
現地調査 における 確認状況	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし

表 4.6-20(4) 注目すべき種の確認状況(キンナガゴミムシ)

種名	キンナガゴミムシ	
現地調査 における 確認状況	春季	確認なし
	夏季	5 地点で確認
	秋季	1 地点で確認
	[redacted]の草地 4 地点で夏季に 4 個体、[redacted]に設置したベイトトラップ B1 で秋季に 1 個体、B2 で夏季に 1 個体を確認した。	

表 4.6-20(5) 注目すべき種の確認状況(ヨツモンコミズギワゴミムシ)

種名	ヨツモンコミズギワゴミムシ	
現地調査 における 確認状況	春季	確認なし
	夏季	4 地点で確認
	秋季	確認なし
	[redacted]の草地 2 地点で夏季に 6 個体、[redacted]に設置したライトトラップ L1 で夏季に 5 個体、L2 で夏季に 40 個体を確認した。	

表 4.6-20(6) 注目すべき種の確認状況(コガムシ)

種名	コガムシ	
現地調査 における 確認状況	春季	確認なし
	夏季	2 地点で確認
	秋季	確認なし
	[redacted]水路で夏季に 1 地点 1 個体、[redacted]に設置したライトトラップ L2 で夏季に 2 個体を確認した。	





表 4.6-20(7) 注目すべき種の確認状況(マメハンミョウ)

種名	マメハンミョウ	
現地調査 における 確認状況	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし



※注目すべき種の保護のため非公開とした。

凡 例

-  事業実施区域
-  調査地域及び予測地域
-  確認位置(夏季)
-  確認位置(秋季)

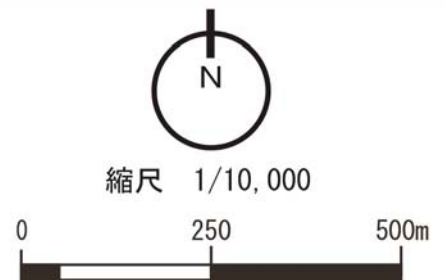







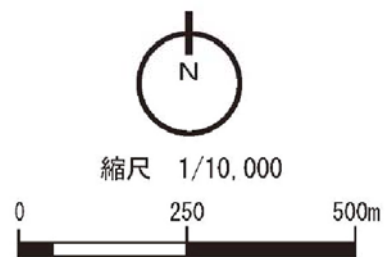
図 4.6-18 注目すべき種の確認位置図（昆虫類）：事後調査





凡 例

-  事業実施区域
-  調査地域及び予測地域
-  確認位置（春季）
-  確認位置（夏季）
-  浸水区域



※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会  
災害対応本部津波被災マップ(2011.4.9)」を基に作成

図 4.6-19 注目すべき種の確認位置図（昆虫類）：評価書

⑥魚類

ア. 確認種

事後調査において確認された魚類は、6目8科19種である。

調査時に感潮が確認された。ボラやマハゼなど、幼魚期に河川に進入する海水性魚類が確認されたことからその現象がうかがえた。

表 4.6-21 確認種一覧

確認種				評価書		事後調査			
目名	科名	種名	学名	春季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季
ウナギ <sup>△</sup>	ウナギ <sup>△</sup>	ニホウナギ <sup>△</sup> ※2	<i>Anguilla japonica</i>				○	○	○
コイ	コイ	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>	○	○		○	○	○
		キンブナ	<i>Carassius</i> sp.	○	○			○	
		オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>	○					○
		アブラハヤ	<i>Phoxinus lagowskii steindachneri</i>	○	○				○
		マルタ	<i>Tribolodon brandtii maruta</i>	○	○			○	○
		ウグイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>	○	○	○			○
		タモロコ	<i>Gnathopogon elongates elongatus</i>	○	○	○		○	○
		ニコイ <sup>△</sup> ※3	<i>Hemibarbus barbuis</i>						○
	トシヨウ	トシヨウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	○	○	○			
ナマス <sup>△</sup>	ナマス <sup>△</sup>	ナマス <sup>△</sup> ※3	<i>Silurus asotus</i>						○
サケ	アユ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis altivelis</i>	○			○	○	
スズキ	ボラ	ボラ <sup>△</sup> ※3	<i>Mugil cephalus cephalus</i>					○	
	ハゼ	ウキコリ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>		○		○	○	○
		マハゼ <sup>△</sup> ※3	<i>Acanthogobius flavimanus</i>				○		○
		アシロハゼ <sup>△</sup> ※3	<i>Acanthogobius lactipes</i>				○		
		旧トウヨシノホリ類 <sup>△</sup> ※3	<i>Rhinogobius</i> sp. OR morphotype unidentified				○	○	○
	ヌマチチブ <sup>△</sup>	<i>Tridentiger brevispinis</i>		○	○	○	○	○	
カレイ	カレイ	ヌマガレイ <sup>△</sup> ※3	<i>Platichthys stellatus</i>				○	○	
6目	8科	19種	-	9種	9種	5種	9種	12種	13種

※1:種名は河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2016年)に準拠した。

※3:評価書では既往調査(方法書に対する市長意見を踏まえ、隣接する「仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書(仙台市荒井東土地区画整理組合 2010)」の調査結果を引用したもので確認され、事後調査においても確認された種

※2:評価書では現地確認がなく、事後調査で新たに確認された種

イ. 注目すべき種等の分布、生息環境及び個体数等

事後調査で確認した種を対象に、表 4.6-22 に示す選定基準に該当する種を注目すべき種として選定した。なお、選定基準の一部は、評価書公告以降に見直されている。新たに見直された基準は、レッドデータブック 2014（環境省）、宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016（宮城県）である。本調査では、評価書時において注目すべき種としていた種以外に、見直された選定基準に該当する種についても対象とした。

表 4.6-22 注目すべき種の選定基準

番号	選定基準	
I	『文化財保護法』（1950年 法律第214号）	特：国指定特別天然記念物 天：国指定天然記念物
II	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』（1992年 法律第75号）	内：国内希少野生動植物種 際：国際希少野生動植物種
III	『レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 4 汽水・淡水魚類』（2015年 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
IV	『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016』（2016年 宮城県）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 要：要注目種(要)
V	『平成 22 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書』（2011年 仙台市）において「学術上重要な動物種」とされる種及び「減少種」の A ランク種	【学術上重要な種】 1:仙台市においてもともと希産あるいは希少である種。あるいは分布が限定されている種 2:仙台市が分布の北限、南限となっている種。あるいは隔離分布となっている種 3:仙台市が模式産地(タイプロカリティー)となっている種 4:その他、学術上重要な種 【減少種】 A:現在ほとんど見ることができない種

※1:Vの資料では、「学術上重要な動物種」、「減少種」、「環境指標種」「ふれあい種」に区分されている。このうち「学術上重要な動物種」と、「減少種」の中でも以前に比べて減少傾向にあり現在ほとんど見ることができず特に希と言われている A ランクの種を選定基準とするが、「減少種」のうち B・C ランクの種及び“\*”（普通に見られる）、“/”（生息・生育しない可能性が非常に大きい）、「環境指標種・ふれあい種」については選定基準としない。

※2:評価書においては、平成 6 年度自然環境基礎調査、平成 15 年度自然環境に関する基礎調査を選定資料として挙げたが、平成 22 年度自然環境に関する基礎調査を最新の評価すべき資料とした。

表 4.6-23 に評価書時の調査及び事後調査で確認した注目すべき種を示す。事後調査で確認されたものは 2 種であった。表 4.6-24(1)～(3)に種ごとの確認状況、図 4.6-20 に確認位置を示す。

表 4.6-23 評価書で予測対象とした注目すべき種

目名	科名	種名	注目種としての位置付け※1	事後調査での確認位置※2							
				事業実施区域内				事業実施区域外			
				夏季	秋季	冬季	春季	冬季	春季	夏季	秋季
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ※3	○	※注目すべき種の保護のため非公開とした。							
コイ	コイ	キンブナ※4	○								
	ドジョウ	ドジョウ※5	○								
2目	3科	3種	-								

※1:欄内の「○」は表 4.6-22 において、注目すべき種として該当する種

※2:欄内の「○」は確認、「-」は未確認

※3:評価書では既往調査（方法書に対する市長意見を踏まえ、隣接する「仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書（仙台市荒井東土地区画整理組合 2010）」の調査結果を引用したもの）で確認された種

※4:評価書では既往調査（方法書に対する市長意見を踏まえ、隣接する「仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書（仙台市荒井東土地区画整理組合 2010）」の調査結果を引用したもの）で確認されたが、事後調査で確認されなかった種

※5:評価書では注目すべき種ではなかったが、表 4.6-22 において新たに選定された種

表 4.6-24(1) 注目すべき種の確認状況(ニホンウナギ)

種名	ニホンウナギ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	2 個体を確認
	夏季	1 個体を確認
	秋季	1 個体を確認
	調査水路である ████████ において、春季に 2 個体、夏季に 1 個体、秋季に 1 個体を確認した。確認個体はいずれも、前年度に遡上したと思われる幼魚であった。	

表 4.6-24(2) 注目すべき種の確認状況(キンブナ)

種名	キンブナ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし

表 4.6-24(3) 注目すべき種の確認状況(ドジョウ)

種名	ドジョウ	
現地調査 における 確認状況	冬季	1 個体を確認
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし
	調査水路である ████████ において、冬季に 1 個体を確認した。三面コンクリート構造の水路で、流末でポンプアップし名取川に放流される ████████ は季節の水深・流量の変動があり、河床の状態がよくないことから個体数は少ない。	

※注目すべき種の保護のため非公開とした。

凡 例

-  事業実施区域
-  調査地域及び予測地域
-  確認位置(冬季)
-  確認位置(春季)
-  確認位置(夏季)
-  確認位置(秋季)

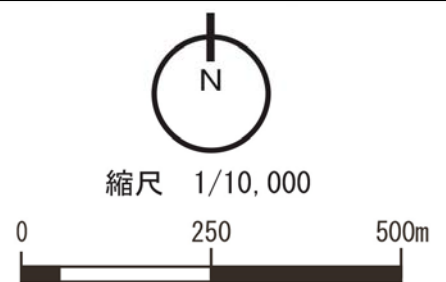


図 4.6-20 注目すべき種の確認位置図（魚類）：事後調査

⑦底生動物

ア. 確認種

事後調査において確認された底生動物は、3門8綱18目35科61種である。

表 4.6-25(1) 確認種一覧

目名	科名	種名	学名	評価書				事後調査					
				冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季		
原始紐舌	タニシ	マルタニシ <sup>※2</sup>	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i>							○	○		
盤足	カリナ	カリナ	<i>Semisulcospira libertina</i>				○						
	ミスツボ	コモチカワツボ	<i>Potamopyrgus antipodarum</i>				○	○	○	○			
基眼	モノアラガイ	ヒメモノアラガイ <sup>※2</sup>	<i>Fossaria ollula</i>							○	○	○	
		モノアラガイ	<i>Radix auricularia japonica</i>			○							
	サカマキガイ	サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>			○	○	○	○		○	○	
	ヒラマキガイ	ヒラマキミスマイ <sup>※2</sup>	<i>Gyraulus pulcher</i>							○			
		ヒラマキガイ属	<i>Gyraulus</i> sp.		○	○					○		
マルスタレガイ	シジミ	シジミ属	<i>Corbicula</i> sp.			○	○						
	マシジミ	マシジミ属	<i>Pisidium</i> sp.			○	○				○		
サシバゴカイ	ゴカイ	カワゴカイ属 <sup>※2</sup>	<i>Hediste</i> sp.					○					
オヨギミズ	オヨギミズ	オヨギミズ科	Lumbriculidae sp.	○	○	○	○						
イトミミズ	ヒメミズ	ヒメミズ科 <sup>※2</sup>	Enchytraeidae sp.									○	
	ミスミズ	エラミズ	<i>Branchiura sowerbyi</i>		○								
		ユリミズ <sup>※2</sup>	<i>Limnodrilus hoffmeisteri</i>						○	○			
		ユリミズ属 <sup>※2</sup>	<i>Limnodrilus</i> sp.									○	
		ミスミズ属	<i>Nais</i> sp.						○	○	○	○	
		クロビミスミズ <sup>※2</sup>	<i>Ophidonais serpentina</i>									○	
		イトミミズ亜科 <sup>※2</sup>	Tubificidae sp.							○	○	○	
		ミスミズ科	Naididae sp.		○	○	○	○					
物無蛭	ヘビ	ウマビル	<i>Whitmania pigra</i>			○					○		
	イシビル	シマイシビル	<i>Dina lineata</i>			○	○				○	○	
		イシビル科	Erpobdellidae sp.			○	○	○					
ダニ	アオイダニ	アオイダニ属 <sup>※2</sup>	<i>Lebertia</i> sp.							○			
	-	ダニ目	Acari sp.			○							
ヨコエビ	マミスヨコエビ	フロリダマミスヨコエビ	<i>Crangonyx floridanus</i>	○	○				○				
ワラジムシ	ミスムシ(甲)	ミスムシ(甲) <sup>※2</sup>	<i>Asellus hilgendorfi</i>									○	
アミ	アミ	クロイサザアミ <sup>※2</sup>	<i>Neomysis awatschensis</i>									○	
エビ	ヌマエビ	ヌマエビ <sup>※2</sup>	<i>Paratya improvisa</i>							○	○	○	
	テナカエビ	スシエビ <sup>※2</sup>	<i>Palaemon paucidens</i>							○	○		
	アメリカザリガニ	アメリカザリガニ	<i>Procambarus clarkii</i>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	サワガニ	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>		○	○							
	モクスガニ	モクスガニ	<i>Eriocheir japonica</i>				○	○	○	○	○	○	
カゲロウ(蜉蝣)	コカゲロウ	フタハコカゲロウ <sup>※2</sup>	<i>Baetiella japonica</i>									○	
		フタモンコカゲロウ	<i>Baetis taiwanensis</i>				○						
		シロハラコカゲロウ <sup>※2</sup>	<i>Baetis thermicus</i>									○	
		コカゲロウ属	<i>Baetis</i> sp.			○	○						
		フタハカゲロウ	<i>Cloeon dipterum</i>			○							
		フタハカゲロウ属 <sup>※2</sup>	<i>Cloeon</i> sp.									○	○
		ウデマカリコカゲロウ <sup>※2</sup>	<i>Tenuibaetis flexifemora</i>									○	
		チラカゲロウ	チラカゲロウ <sup>※2</sup>	<i>Isonychia japonica</i>								○	
モンカゲロウ	トウヨウモンカゲロウ	<i>Ephemera orientalis</i>			○								
	モンカゲロウ	<i>Ephemera strigata</i>			○								

※1:種名は河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2016 年)に準拠した。

※2:評価書では現地確認がなく、事後調査で新たに確認された種

※3:学名において「~sp.」である種は、同科、同属等の種が確認されている場合、種数に計上しない。

表 4.6-25(2) 確認種一覧

目名	科名	種名	学名	評価書				事後調査				
				冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季	
トンボ(蜻蛉)	イトトンボ	アジイトトンボ <sup>※2</sup>	<i>Ischnura asiatica</i>							○		
		アオモンイトトンボ <sup>※2</sup>	<i>Ischnura senegalensis</i>								○	
	ササエトンボ	ミヤマササエ <sup>※2</sup>	<i>Anisogomphus maacki</i>								○	
	トンボ	ウスハキトンボ <sup>※2</sup>	<i>Pantala flavescens</i>								○	
トンボ科 <sup>※2</sup>		Libellulidae sp.									○	
カメシ(半翅)	アメンボ	アメンボ	<i>Aquarius paludum paludum</i>		○						○	
		ヤスマツアメンボ <sup>※2</sup>	<i>Gerris insularis</i>						○			
		ヒメアメンボ	<i>Gerris latiabdominis</i>		○						○	
	カクヒロアメンボ	ナカレカクヒロアメンボ <sup>※2</sup>	<i>Pseudovelgia tibialis</i>						○			
	ミスミシ(昆)	チビミスミシ属	<i>Micronecta</i> sp.					○			○	
		ハラクワミスミシ <sup>※2</sup>	<i>Sigara nigroventralis</i>								○	○
ヘビトンボ	セツフリ	セツフリ科	<i>Sialidae</i> sp.				○					
トビケラ(毛翅)	シマトビケラ	コカクシマトビケラ属	<i>Cheumatopsyche</i> sp.				○	○			○	
	ヒメトビケラ	ヒメトビケラ属 <sup>※2</sup>	<i>Hydroptila</i> sp.					○	○	○	○	
	ヒゲナカトビケラ	アヒゲナカトビケラ属 <sup>※2</sup>	<i>Mystacides</i> sp.								○	
	-	トビケラ(毛翅)目	TRICHOPTERA sp.				○					
ハエ(双翅)	カクカンボ	カクカンボ属	<i>Tipula</i> sp.		○		○	○			○	
	チョウハエ	チョウハエ属	<i>Psychoda</i> sp.	○								
	ユスリカ	タンダラヒユスリカ属 <sup>※2</sup>	<i>Ablabesmyia</i> sp.									○
		ユスリカ属	<i>Chironomus</i> sp.				○		○			○
		エダゲヒゲユスリカ属 <sup>※2</sup>	<i>Cladotanytarsus</i> sp.									○
		ツヤユスリカ属 <sup>※2</sup>	<i>Cricotopus</i> sp.						○	○	○	○
		カマカクユスリカ属	<i>Cryptochironomus</i> sp.				○				○	○
		ホニユスリカ属 <sup>※2</sup>	<i>Dicrotendipes</i> sp.							○		○
		フユスリカ属	<i>Hydrobaenus</i> sp.		○							
		エリユスリカ属	<i>Orthocladius</i> sp.			○	○		○	○		
		ニセヒゲユスリカ属 <sup>※2</sup>	<i>Paratanytarsus</i> sp.						○			
		ハモニユスリカ属	<i>Polypedilum</i> sp.		○		○	○	○	○	○	○
		サワユスリカ属 <sup>※2</sup>	<i>Potthastia</i> sp.							○		
		ナカレユスリカ属 <sup>※2</sup>	<i>Rheotanytarsus</i> sp.									○
		アシマダラユスリカ属 <sup>※2</sup>	<i>Stictochironomus</i> sp.							○		
		カスリモニユスリカ属 <sup>※2</sup>	<i>Tanytus</i> sp.									○
		ヒゲユスリカ属	<i>Tanytarsus</i> sp.				○	○	○	○	○	○
		ニセテンマクエリユスリカ属	<i>Tvetenia</i> sp.		○							
		ヤマユスリカ亜科	Diamesinae sp.		○							
		エリユスリカ亜科	Orthoclaadiinae sp.			○	○	○				○
ユスリカ科	Chironomidae sp.		○		○	○	○	○	○	○		
ミスアブ	ミスアブ科	Stratiomyidae sp.					○					
コウチュウ(鞘翅)	ケンコウロウ	チビケンコウロウ <sup>※2</sup>	<i>Hydroglyphus japonicus</i>								○	
		チヤイロシマチビケンコウロウ <sup>※2</sup>	<i>Nebrioporus anchoralis</i>								○	
		ヒメケンコウロウ	<i>Rhantus suturalis</i>		○	○	○	○			○	○
		ケンコウロウ科	Dytiscidae sp.			○						
	コカクシラミスミシ	コカクシラミスミシ	<i>Peltodytes intermedius</i>			○					○	
	ガムシ	トゲハコマフガムシ <sup>※2</sup>	<i>Berosus lewisius</i>									○
		ゴマフガムシ	<i>Berosus punctipennis</i>			○						
		フタホシヒラタガムシ <sup>※2</sup>	<i>Enochrus umbratus</i>									○
		コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>					○		○	○	○
	20 目	43 科	76 種	-	10 種	13 種	23 種	21 種	17 種	22 種	44 種	27 種

※1:種名は河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2016 年)に準拠した。

※2:評価書では現地確認がなく、事後調査で新たに確認された種

※3:学名において「~sp.」である種は、同科、同属等の種が確認されている場合、種数に計上しない。

イ. 注目すべき種等の分布、生息環境及び個体数等

事後調査で確認した種を対象に、表 4.6-26 に示す選定基準に該当する種を注目すべき種として選定した。なお、選定基準の一部は、評価書公告以降に見直されている。新たに見直された基準は、レッドデータブック 2014（環境省）、宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016（宮城県）である。

本調査では、評価書時において注目すべき種としていた種以外に、見直された選定基準に該当する種についても対象とした。

表 4.6-26 注目すべき種の選定基準

番号	選定基準	
I	『文化財保護法』（1950年 法律第214号）	特：国指定特別天然記念物 天：国指定天然記念物
II	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律』（1992年 法律第75号）	内：国内希少野生動植物種 際：国際希少野生動植物種
III	『レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物-5 昆虫類』（2015年 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室） 『レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物-6 貝類』（2014年 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室） 『レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物-7 その他無脊椎動物（クモ形類・甲殻類等）』（2014年 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA 類 EN：絶滅危惧 IB 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
IV	『宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物 RED DATA BOOK MIYAGI 2016』（2016年 宮城県）	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I 類 VU：絶滅危惧 II 類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群 要：要注目種(要)
V	『平成 22 年度自然環境に関する基礎調査業務報告書』（2011年 仙台市）において「学術上重要な動物種」とされる種及び「減少種」の A ランク種	【学術上重要な種】 1:仙台市においてもともと希産あるいは希少である種。あるいは分布が限定されている種 2:仙台市が分布の北限、南限となっている種。あるいは隔離分布となっている種 3:仙台市が模式産地(タイプロカリティー)となっている種 4:その他、学術上重要な種 【減少種】 A:現在ほとんど見ることができない種

※1: Vの資料では、「学術上重要な動物種」、「減少種」、「環境指標種」「ふれあい種」に区分されている。このうち「学術上重要な動物種」と、「減少種」の中でも以前に比べて減少傾向にあり現在ほとんど見ることができず特に希と言われている A ランクの種を選定基準とするが、「減少種」のうち B・C ランクの種及び“\*”（普通に見られる），“/”（生息・生育しない可能性が非常に大きい）、「環境指標種・ふれあい種」については選定基準としない。

※2: 評価書においては、平成 6 年度自然環境基礎調査、平成 15 年度自然環境に関する基礎調査を選定資料として挙げたが、平成 22 年度自然環境に関する基礎調査を最新の評価すべき資料とした。



表 4.6-27 に評価書時の調査及び事後調査で確認した注目すべき種を示す。事後調査で確認されたものは3種であった。表 4.6-28(1)～(6)に種ごとの確認状況、図 4.6-21 に確認位置を示す。

表 4.6-27 評価書で予測対象とした注目すべき種

門名	綱名	目名	科名	種名	注目種としての位置付け※1	事後調査での確認位置							
						事業実施区域内				事業実施区域外			
						冬季	春季	夏季	秋季	冬季	春季	夏季	秋季
軟体動物	腹足	原始紐舌	タニシ	マルタニシ※3	○	※注目すべき種の保護のため非公開とした。							
		基眼	モノアラガイ	モノアラガイ	○								
			ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ※3	○								
節足動物	昆虫	コウチュウ(鞘翅)	ケソコロウ	マルカダケソコロウ※4	○								
			カムシ	ヤマトコマカムシ※4	●								
			コカムシ※5	コカムシ	○								
2門	2綱	3目	5科	6種	-								

※1:欄内の「○」は表 4.6-26 において、注目すべき種として該当する種、「●」は評価書時の選定基準で注目すべき種に該当していた種

※2:欄内「○」は確認、「-」は未確認

※3:評価書では現地確認がなく、事後調査で新たに確認された種

※4:評価書では既往調査(方法書に対する市長意見を踏まえ、隣接する「仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書(仙台市荒井東土地区画整理組合 2010)」の調査結果を引用したもの)で確認されたが、事後調査で確認されなかった種

※5:評価書では注目すべき種ではなかったが、表 4.6-26 において新たに選定された種

表 4.6-28(1) 注目すべき種の確認状況(マルタニシ)

種名	マルタニシ	
現地調査における確認状況	冬季	確認なし
	春季	1地点で確認
	夏季	1地点で確認
	秋季	1地点で確認
	[redacted] 春季約 50 個体、夏季に 5 個体、秋季に 7 個体を確認した。	

表 4.6-28(2) 注目すべき種の確認状況(モノアラガイ)

種名	モノアラガイ	
現地調査における確認状況	冬季	確認なし
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし

表 4.6-28(3) 注目すべき種の確認状況(ヒラマキガイモドキ)

種名	ヒメヒラマキミズマイマイ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	1 地点で確認
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし
	[redacted] 春季に 1 個体を確認した。	

表 4.6-28(4) 注目すべき種の確認状況(マルガタゲンゴロウ)

種名	マルガタゲンゴロウ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし

表 4.6-28(5) 注目すべき種の確認状況(ヤマトゴマフガムシ)

種名	ヤマトゴマフガムシ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	確認なし
	夏季	確認なし
	秋季	確認なし






表 4.6-28(6) 注目すべき種の確認状況(コガムシ)

種名	コガムシ	
現地調査 における 確認状況	冬季	確認なし
	春季	2 地点で確認
	夏季	2 地点で確認
	秋季	3 地点で確認
	[redacted] 春季に 2 地点 2 個体、夏季に 2 地点 2 個体、秋季に 3 地点 4 個体を確認した。	



※注目すべき種の保護のため非公開とした。

凡 例

-  事業実施区域
-  調査地域及び予測地域
-  確認位置(春季)
-  確認位置(夏季)
-  確認位置(秋季)

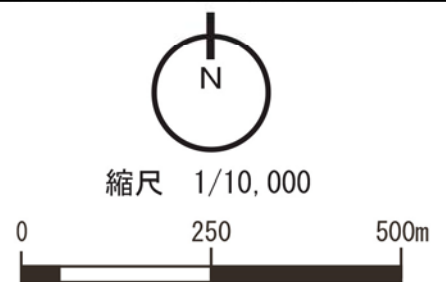




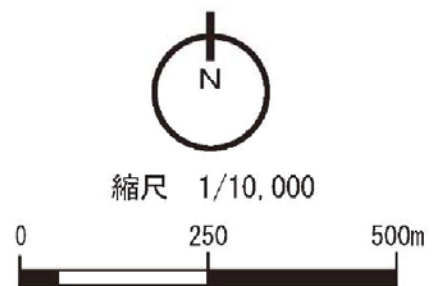


図 4.6-21 注目すべき種の確認位置図（底生動物）：事後調査



凡 例

-  事業実施区域
-  調査地域及び予測地域
-  確認位置（夏季）
-  浸水区域



※浸水区域は、「東北地方太平洋沖地震・日本地理学会  
災害対応本部津波被災マップ(2011.4.9)」を基に作成

図 4.6-22 注目すべき種の確認位置図（底生動物）：評価書

#### 4.6.2 予測結果と調査結果の比較

分類群ごとの予測の結果及び事後調査による検証結果を表4.6-29(1)～(3)に、注目すべき種各種についての検証結果を表4.6-30(1)～(10)に示す。なお、両生類のトウキョウダルマガエル、底生動物（貝類）のマルタニシ、ヒメヒラマキミズマイマイは、事後調査において新たに確認された注目すべき種である。また、昆虫類および底生動物のコガムシ、魚類のドジョウは選定基準の一部見直しにより新たに選定された注目すべき種である。

表 4.6-29(1) 動物相の予測及び検証結果

分類群	予 測	検証結果
哺乳類	<p>事業の実施により、事業実施区域では公園や道路沿道の街路樹が形成されるとともに、低層の戸建て住宅や商業・業務施設が立地し、市街化が進む。そのため、公園等にまとまった緑地があるものの、哺乳類としての生息環境の回復はほとんどないと予測する。</p> <p>コウモリ類については、樹洞や、民家等の人工構造物の隙間を、ねぐらや繁殖場所として利用し、夜間に周辺の空間で昆虫類を捕らえて餌にしている特性を持つため、建設される人工構造物が、生息空間の一部として利用されると予測する。</p>	<p>〇〇〇〇では、コウモリ類を除いて哺乳類の確認はなく、予測の通り哺乳類の生息環境の回復はないと考えられる。</p> <p>なお、評価書時に確認された、アズマモグラ、タヌキ、キツネ、イタチが、事後調査においても〇〇〇〇で確認されていることから、〇〇〇〇での利用は継続しているものと考えられる。</p> <p>コウモリ類については、ヒナコウモリ科 1 は〇〇〇〇で確認され、〇〇〇〇でも確認された。ヒナコウモリ科 2 は〇〇〇〇では評価書時より多くの地点で確認され、〇〇〇〇でも確認された。以上のことから、予測のとおり、事業実施区域内についても生息空間の一部として利用されていると考えられる。</p>
鳥類	<p>事業の実施により、事業実施区域では公園や道路沿道の街路樹が形成されるとともに、低層の戸建て住宅や商業・業務施設が立地し、市街化が進む。そのため、ドバトやスズメ、ハシブトガラス等の都市的環境を好む種が増加すると考えられる。</p> <p>一方、事業実施区域南側は水田環境と接しているため、現地調査で確認していた水田や農耕地を生息環境とするホオジロやツグミといった種についても確認できるようになると予測する。</p>	<p>事業実施区域内では、ドバトやスズメ、ハシブトガラスなどの個体数の増加は確認できていないが、事業実施区域内において引き続き生息が確認されている。さらにハクセキレイの利用も確認され、予測のとおり、住宅地の環境にも順応した種であるイソヒヨドリが新たに確認された。</p> <p>事業実施区域周辺の水田や耕作地は残存しており、住宅地にも見られるツグミやスズメ、ヒバリ、ムクドリなどは事業実施区域内を採餌環境として利用していたことから、予測のとおり今後は事業実施区域と周辺地域を行き来しながら生息すると考えられる。</p>
爬虫類	<p>事業の実施により、事業実施区域では公園や道路沿道の街路樹が形成され、低層の戸建て住宅や商業・業務施設が立地するなど、市街化が進むに伴い、公園や道路沿道の街路樹、戸建て住宅の庭など生息環境が回復してくるため、事業実施前の爬虫類相に回復するものと予測する。</p>	<p>事業の実施により事業実施区域の生息環境は消失し、現在、戸建て住宅等の一部は建設中であるため、住宅の庭を中心に、緑地が回復しつつある段階である。</p> <p>事後調査の結果、爬虫類は確認されなかった。なお、評価書時の確認もシマヘビの 1 地点 1 個体に留まる。今後周辺からの移動等により、シマヘビ等が住宅の庭先等を利用する可能性も考えられる。</p>

表 4.6-29(2) 動物相の予測及び検証結果

分類群	予 測	検証結果
両生類	<p>事業の実施により、事業実施区域では公園や道路沿道の街路樹が形成されるとともに、低層の戸建て住宅や商業・業務施設が立地し、市街化が進む。</p> <p>事業実施区域南側は水田環境と接しているため、戸建て住宅の庭先等を生活の場の一部として利用する種も出てくるようになると予測する。</p>	<p>事業の実施により事業実施区域の生息環境は消失し、現在、戸建て住宅等の一部は建設中であるため、住宅の庭を中心に、緑地が回復しつつある段階である。</p> <p>事後調査の結果、[ ]ではカエル類 3 種、[ ]ではニホンアマガエル 1 種が確認されており、今後周辺からの移動等により、住宅の庭先等を利用する種も出てくるものと考えられる。</p>
昆虫類	<p>事業の実施により、事業実施区域では公園や道路沿道の街路樹が形成され、低層の戸建て住宅や商業・業務施設が立地するなど、市街化が進むに伴い、公園や緑道、戸建て住宅の庭など、都市的環境に対応できる種の生息環境が回復してくる。</p> <p>公園や道路沿道の街路樹では昆虫類が利用可能な花や実がつく樹木が植栽されるほか、事業実施区域南側に隣接している水田環境との境界付近では、工事により一時的に裸地化した環境が水田や農耕地の畦などに形成されていた路傍植物による回復が見込めることから、現況調査で確認されたオンブバッタやモンキチョウ、ヨモギハムシといった昆虫類の生息の可能性があると予測する。</p>	<p>事業の実施により事業実施区域全域が改変されたため、事業実施区域内の昆虫類の生息環境は消失したと考えられる。しかしながら、現在、公園や緑道、戸建て住宅の庭を中心に、緑地が回復しつつある段階である。</p> <p>事後調査においては、そのような植生の回復に伴い、アオバハゴロモ、ミイデラゴミムシ、ゴマダラカミキリといった都市的環境に対応できる種が確認された。</p> <p>また、水田環境との境界付近では、畦に形成されていた植生が若干回復しており、移動力が高いオンブバッタやモンキチョウといった昆虫類が生息していた。今後、移動力の低いヨモギハムシなどの利用も考えられる。</p> <p>事後調査では評価書時と同程度の種数が確認されており、予測通り昆虫類の生息に適した環境が形成・回復しつつあるものと考えられる。</p>
魚類	<p>本事業では、事業実施区域からの雨水排水を [ ] に放流する計画はないことから、魚類の生息環境に与える影響はほとんどないと予測する。</p>	<p>事業実施区域から排出される雨水は、仙台市による（仮称）東部排水路の供用がなされるまで、[ ] に直接、自然放流する計画に変更となった（事後調査報告書（第1回）にて報告済み）。</p> <p>事後調査の結果、評価書での確認種数を上回る 19 種の確認があった。評価書における確認種は全て、事後調査において確認されている。このため、事業実施区域からの雨水排水による魚類相への影響はほとんどないと考えられる。</p>

表 4. 6-29 (3) 動物相の予測及び検証結果

分類群	予 測	検証結果
底生動物	<p>本事業では、事業実施区域からの雨水排水を[ ]に放流する計画はないことから、底生動物の生息環境に与える影響はほとんどないと予測する。</p>	<p>事業実施区域から排出される雨水は、仙台市による（仮称）東部排水路の供用がなされるまで、[ ]に直接、自然放流する計画に変更となった(事後調査報告書(第1回)にて報告済み)。</p> <p>事後調査の結果、61種の底生動物が確認され、評価書時の40種より増加した。評価書で確認されているが事後調査において確認されなかった15種*のうち、水田や周辺の土水路に生息する、ゴマフガムシやミズアブ科等は事業実施区域内の改変により生息地が減少したと考えられる。</p> <p>しかし、[ ]は工事前の状態のまま残存し、生物種の流下、底質や水質の安定化が想定される。また、評価書時と同程度の種数が確認されており、事業実施区域からの雨水排水による底生動物相への影響は少ないと考えられる。</p>

※同属、同科の種が事後調査で確認されている場合は計上していない。

表 4. 6-30(1) 注目すべき種の予測及び検証結果

種名	予測(評価書)		事後調査	検証結果
	確認状況	予測内容		
哺乳類 ヒナコウモリ科 1 ヒナコウモリ科 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 地点で夏季に確認(ヒナコウモリ科 2)</li> <li>・ 1 地点で夏季に確認(ヒナコウモリ科 1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業実施区域が改変後に住宅地等となった場合、形成される建造物を利用して、ねぐらや繁殖場所として利用する可能性がある。また、住宅地増加に伴い、光源が増加するため、飛翔性昆虫の量が回復する可能性が高く、採餌環境としての回復が考えられる。これらのことから、事業の実施が当該種に及ぼす影響はほとんどないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ヒナコウモリ科 1 を 2 地点で、夏季に 2 地点確認した。その内 1 地点は 1 地点で、夏季に 1 地点、秋季に 4 地点を確認した。また、 1 地点では、 1 地点で、春季に 5 地点、夏季に 5 地点、秋季に 3 地点確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事後調査の結果、 1 地点で、評価書時の確認より、地点数が増加した。これは、事業実施区域の住宅地増加に伴い、光源が増加し、飛翔性昆虫の量が回復し、採餌環境として回復したと考えられ、予測の通り、事業の実施が当該種に及ぼす影響はほとんどないと考えられる。</li> </ul>
鳥類 アマサギ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4 地点で確認</li> <li>・ 1 地点で確認</li> <li>・ 春季 2 地点、夏季 3 地点確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した採餌・休息環境の回復は見込めないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事後調査では確認されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事後調査の結果、事業実施区域及びその近傍では確認されなかった。事業実施区域内は公園や道路整備とともに、戸建て住宅等の建造物が立地していることから、予測のとおり、採餌・休息環境が消失し、利用はなくなったと考えられる。</li> </ul>
鳥類 チュウサギ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4 地点で確認</li> <li>・ 5 地点で確認</li> <li>・ 春季 6 地点、夏季 3 地点確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した採餌・休息環境の回復は見込めないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 地点で春季に 9 地点 9 個体、夏季に 9 地点 13 個体、秋季に 1 地点 1 個体を確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事後調査の結果、 1 地点でも採餌、休息している個体を確認したことから予測の通り、事業の実施による影響はほとんどなかったと考えられる。</li> </ul>



表 4. 6-30(2) 注目すべき種の予測及び検証結果

種名	予測(評価書)		事後調査	検証結果
	確認状況	予測内容		
鳥類 ヨシゴイ	・既往調査*での確認記録	・事業実施区域内には、当該種の生息・繁殖に適した池、湖沼、河川等も存在しないことから、住宅地等の存在自体による周辺環境への影響はない。このため、事業の実施が当該種に及ぼす影響はないと予測する。	・事後調査では確認されなかった。	・事後調査では確認されなかった。事業実施区域周辺に主な生息環境となりうるヨシ原がなく、評価書時の現地調査でも確認されなかったことから、事業実施区域及びその周辺には生息していないと考えられる。また、当該種の採餌・休息場所となる事業実施区域周辺の水田環境に対して、本事業の住宅地等の存在が及ぼす影響はほとんどないことから、予測のとおり、当該種に及ぼす影響はないと考えられる。
鳥類 コサギ	・4地点で確認(内1地点は飛翔確認) ・冬季11地点、夏季3地点確認、秋季1地点確認	・事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した採餌・休息環境の回復は見込めないと予測する。	・で夏季に3地点5個体、冬季と秋季に各1地点1個体を確認した。	・事後調査の結果、  予測の通り、事業の実施による影響はほとんどなかったと考えられる。
鳥類 マガン	・飛翔個体を冬季6回確認	・事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した採餌・休息環境の回復は見込めないと予測する。	・事後調査では確認されなかった。	・事業実施区域内は公園や道路整備とともに、戸建て住宅等の建造物が立地していることから、予測のとおり事業実施区域内の採餌・休息環境が消失し、利用はなくなったと考えられる。
鳥類 コハクチョウ	・3地点で確認(内1地点は飛翔確認) ・冬季2地点、秋季1地点確認	・事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した採餌・休息環境の回復は見込めないと予測する。	・2地点で825個体を確認した。	・では、事後調査時の確認はなかったが、 を利用する群れにより周辺地域への飛来の継続を確認したことから、 でも、今後、確認されると考えられる。

表 4. 6-30(3) 注目すべき種の予測及び検証結果

種名	予測(評価書)		事後調査	検証結果
	確認状況	予測内容		
鳥類 ミサゴ	<ul style="list-style-type: none"> <li>で飛翔個体 夏季1回確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該種は事業実施区域外での通過個体として確認しており、当該種の生態を踏まえると、事業実施区域において狩りや採餌等に利用する可能性は低いと考えられるため、事業の存在による影響はほとんどないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後調査では確認されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後調査の結果、事業実施区域及びその周辺での確認はなかった。評価書時には通過個体として確認しており、もともと事業実施区域内を採餌等に利用する可能性は低いと考えられることから、事業の存在による影響はほとんどないと考えられる。</li> </ul>
鳥類 オオタカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>の上空を旋回 飛翔する個体 を夏季1回確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した狩りや採餌環境の回復は見込めないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>で飛翔する個体を、夏季に1回1個体を確認した。</li> <li>で誇示行動を冬季に確認したが、繁殖はなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動している個体を確認したことから、事業実施区域周辺での利用は継続していると考えられる。</li> </ul>
鳥類 ハイタカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>旋回飛翔する 1個体を冬季2 回、秋季2回確 認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した狩りや採餌環境の回復は見込めないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後調査では確認されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施区域内は公園や道路整備とともに、戸建て住宅等の建造物が立地し、事業実施区域内において採餌行動が確認されていないことから、予測のとおり、狩りや採餌環境の回復は見込みにくいと考えられる。</li> <li>事後調査では確認がなかったが、事業実施区域外南側の水田環境は変化していないことから、今後も本種が利用する可能性があると考えられる。</li> </ul>
鳥類 ハヤブサ	<ul style="list-style-type: none"> <li>飛翔個体27回 確認</li> <li>各季確認回数は、冬季10回、春季3回、夏季9回、秋季5回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した狩りや採餌環境の回復は見込めないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬季に で採餌をする1個体と を飛翔する1 個体を確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動している個体を確認したことから、事業実施区域周辺での利用は継続していると考えられる。</li> </ul>

表 4. 6-30(4) 注目すべき種の予測及び検証結果

種名	予測(評価書)		事後調査	検証結果
	確認状況	予測内容		
鳥類 コチョウゲンボウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [ ] 2回確認</li> <li>・ [ ] 5回確認</li> <li>・ 各季確認回数は、冬季5回、秋季2回確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した狩りや採餌環境の回復は見込めないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冬季に [ ] で採餌をする1個体を確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [ ] 活動個体を確認したことから、事業実施区域周辺の利用は継続していると考えられる。</li> </ul>
鳥類 チョウゲンボウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [ ] 3回確認</li> <li>・ [ ] 9回確認</li> <li>・ 各季確認回数は、冬季4回、春季1回、夏季4回、秋季3回確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した狩りや採餌環境の回復は見込めないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冬季に [ ] 上空を [ ] 通過する1個体と、秋季に [ ] を飛行する1個体を確認した。</li> <li>・ [ ] で冬季に2個体、秋季に1個体。 [ ] で冬季に採餌を行う1個体を確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [ ] 上空を通過する個体の確認はあったものの、採餌行動の確認はなかった。 [ ] では採餌を行っており、利用が継続していることを確認した。</li> </ul>
鳥類 カッコウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [ ] 春季1回1地点で確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [ ] 事業実施区域内において採餌対象となる昆虫類の生息の回復が見込めることから、事業の存在による影響はほとんどないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事後調査では確認されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [ ] 事業実施区域内での確認はなかった。しかしながら、事業実施区域内は公園や道路等の植栽により、採餌対象となる昆虫類の生息の回復が見込まれ、当該種が利用することが期待される。</li> </ul>
鳥類 コミミズク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [ ] 冬季1回1地点(飛行)で確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [ ] その確認状況及び当該種の生態を踏まえると、事業実施区域内の環境に依存していないとみられるため、事業の存在による影響はほとんどないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事後調査では確認されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事後調査の結果、事業実施区域及びその周辺での確認はなかった。評価書時の確認状況及び当該種の生態を踏まえると、もともと事業実施区域内の環境に依存していないとみられることから、事業の存在による影響はほとんどないと考えられる。</li> </ul>

表 4. 6-30(5) 注目すべき種の予測及び検証結果

種名	予測(評価書)		事後調査	検証結果
	確認状況	予測内容		
鳥類 カワセミ	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季1回1地点で確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。当該種に適した採餌・休息環境が改変されることはなく、事業の存在がこれら環境に及ぼす要因もない。そのため、影響はほとんどないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後調査では確認されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該種に適した採餌・休息環境は維持されていると考えられる。</li> </ul>
鳥類 セグロセキレイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季1回1地点で確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施区域内において生息環境の回復が見込めることから、事業の存在による影響はほとんどないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>で、秋季に1個体を確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後利用する可能性がある。</li> </ul>
鳥類 セッカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季1回1地点で確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した繁殖・採餌の回復は見込めないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏季にで移動をする1個体、で囀る1個体を確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動個体を確認したことから、事業実施区域周辺での利用は継続していると考えられる。</li> </ul>
鳥類 アオジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>秋季1回1地点で確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施区域内において生息環境の回復が見込めることから、事業の存在による影響はほとんどないと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>春季にで1個体を確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動個体が確認されており、事業実施区域周辺での利用は継続していると考えられる。</li> </ul>

表 4. 6-30(6) 注目すべき種の予測及び検証結果

種名	予測(評価書)		事後調査	検証結果
	確認状況	予測内容		
両生類 ニホンアカガエル	<ul style="list-style-type: none"> <li>21 地点で確認</li> <li>各季の確認は、春季 3 地点、夏季 8 地点、秋季 10 地点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した生息環境の回復は見込みにくいと予測する。しかし、事業実施区域南側は水田環境と接しているため、戸建て住宅の庭先等を生活の場の一部とする可能性もあると予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>春季 9 地点、夏季 6 地点、秋季 5 地点で確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認されており、今後、周辺からの移動等により、戸建て住宅の庭先等を利用する可能性も考えられる。</li> </ul>
両生類 トウキョウダルマガエル	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価書において現地確認がなく予測を行っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>で、成体の鳴き声を春季に 1 個体確認した。</li> </ul>	—
昆虫類 ヒメオオメナガカメムシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>4 地点で夏季に確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施区域内は、公園や道路整備を行い、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。当該種の生息に適した水路等の生息環境は、事業実施区域内での回復は見込みにくいと予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>で夏季に 3 個体、で夏季に 8 個体、秋季に 2 個体を確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認されていることから、周辺の生息環境については、事業の実施による直接の影響はないものと考えられる。</li> </ul>
昆虫類 オオホシボシゴミムシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>既往調査※では 1 箇所確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施区域内は、公園や道路整備を行い、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。当該種に適した草地等の生息環境は、公園や道路沿道の街路樹、戸建て住宅の庭の一部等において回復が見込めると予測する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後調査では確認されなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既往調査で確認されているものの、評価時の現地調査、事後調査を含めて事業実施区域とその周辺では確認されなかった。そのため、当地には生息しておらず、事業の影響はないと考えられる。</li> </ul>

※既往調査：方法書に対する市長意見を踏まえ、隣接する「仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書（仙台市荒井東土地区画整理組合 2010）」の調査結果を引用したもの。同評価書の調査地域は、本事業の調査地域のうち、本事業実施区域外の東側住宅地並びに七郷中学校が重複する。

表 4. 6-30(7) 注目すべき種の予測及び検証結果

種名	予測(評価書)		事後調査	検証結果
	確認状況	予測内容		
昆虫類 ヤマトトックリゴミムシ	・既往調査*では[ ] 1箇所確認	・事業実施区域内は、公園や道路整備を行い、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。当該種に適した湿性草地の生息環境は、事業実施区域内での回復は見込みにくい予測する。	・事後調査では確認されなかった。	・既往調査で確認されているものの、評価時の現地調査、事後調査を含めて事業実施区域とその周辺では確認されなかった。そのため、当地には生息しておらず、事業の影響はないと考えられる。
昆虫類 キンナガゴミムシ	・[ ] 3地点で確認 ・各季春季 1 地点、夏季 2 地点で確認	・事業実施区域内は、公園や道路整備を行い、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。当該種に適した草地等の生息環境は、公園や道路沿道の街路樹、戸建て住宅の庭の一部等において回復が見込めると予測する。	・[ ] で夏季に 4 個体、[ ] に設置したベイトトラップ B2 で夏季に 1 個体、B1 で秋季に 1 個体を確認した。	・[ ] 確認されていることから、周辺の生息環境については、事業の実施による直接の影響はないと考えられる。
昆虫類 ヨツモンコミズギワゴミムシ	・[ ] 夏季 2 地点確認	・事業実施区域内は、公園や道路整備を行い、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。当該種の生息に適した水路等の生息環境は、事業実施区域内での回復は見込みにくいと予測する。	・[ ] で夏季に 6 個体、[ ] に設置したライトトラップ L1 で夏季に 5 個体、L2 で夏季に 40 個体を確認した。	・[ ] 確認されていることから、周辺の生息環境については、事業の実施による直接の影響はないと考えられる。
昆虫類 コガムシ	・夏季調査で確認	・評価書において注目すべき種の選定基準に該当しなかったため予測を行っていない。	・[ ] で夏季に 1 地点 1 個体、[ ] に設置したライトトラップ L2 で夏季に 2 個体を確認した。	—

※既往調査：方法書に対する市長意見を踏まえ、隣接する「仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書（仙台市荒井東土地区画整理組合 2010）」の調査結果を引用したもの。同評価書の調査地域は、本事業の調査地域のうち、本事業実施区域外の東側住宅地並びに七郷中学校が重複する。

表 4.6-30(8) 注目すべき種の予測及び検証結果

種名	予測(評価書)		事後調査	検証結果
	確認状況	予測内容		
昆虫類 マメハンミ ヨウ	・既往調査*で は 4箇所 で確認	・事業実施区域内は、公園 や道路整備を行い、将来的 には戸建て住宅等の建 造物が立地する。当該 種に適した草地等の生 息環境は、公園や道路沿 道の街路樹、戸建て住宅 の庭の一部等において 回復が見込めると予測 する。	・事後調査では確認さ れなかった。	・既往調査で確認されてい るものの、評価時の現地 調査、事後調査を含めて 事業実施区域とその周 辺では確認されなかつ た。そのため、当地に は生息しておらず、事 業の影響はないと考え られる。
魚類 ニホンウナ ギ	・既往調査*で の確認記録	・              当該 種の生息環境に与える 影響はないと予測す る。	・   春季 2 個体、夏季 1 個体、秋季 1 個体を 確認した。	・事後調査の結果、三季 にわたり確認されてい ることから、事業実施 区域の存在による影響 はほとんどないと考え られる。
魚類 キンブナ	・既往調査*で の確認記録	・              当該 種の生息環境に与える 影響はないと予測す る。	・事後調査では確認さ れなかった。	・既往調査で確認されて いるものの、評価書時 の現地調査、事後調査 では確認されなかつ た。調査地点である の生息個体数が少 ないことがその理由と して考えられる。

※既往調査：方法書に対する市長意見を踏まえ、隣接する「仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書（仙台市荒井東土地区画整理組合 2010）」の調査結果を引用したもの。同評価書の調査地域は、本事業の調査地域のうち、本事業実施区域外の東側住宅地並びに七郷中学校が重複する。

表 4. 6-30(9) 注目すべき種の予測及び検証結果

種名	予測(評価書)		事後調査	検証結果
	確認状況	予測内容		
魚類 ドジョウ	・春季及び秋季調査で確認	・評価書において注目すべき種の選定基準に該当しなかったため予測を行っていない。	・[redacted]において、冬季1個体を確認した。	—
底生動物 マルタニシ	—	・評価書において現地確認がなく予測を行っていない。	・[redacted]において夏季4個体、秋季19個体、春季3個体を確認した。	—
底生動物 モノアラガイ	・[redacted]夏季1地点で確認	・[redacted]当該種の生息環境に与える影響はないと予測する。	・事後調査では確認されなかった。	・事後調査の結果確認できなかった。評価書時に確認した[redacted]の変更は行っておらず、また、実施区域からの雨水排水も流入しないことから、事後調査で確認できなかった理由は不明だが、予測のとおり、事業による影響はないと考えられる。
底生動物 コガムシ	・秋季調査で確認	・評価書において注目すべき種の選定基準に該当しなかったため予測を行っていない。	・[redacted]で、夏季2個体、秋季3個体を確認した。	—
底生動物 ヤマトゴマフガムシ	・既往調査※での確認記録 [redacted]	・[redacted]当該種の生息環境に与える影響はないと予測する。	・事後調査では確認できなかった。	・既往調査で確認されているものの、評価時の現地調査、事後調査を含めて事業実施区域とその周辺では確認されなかった。ただし、当該確認地点に事業区域からの雨水排水はないため、予測のとおり、当該種の生息環境に与える影響はないと考えられる。

※既往調査：方法書に対する市長意見を踏まえ、隣接する「仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書（仙台市荒井東土地区画整理組合 2010）」の調査結果を引用したもの。同評価書の調査地域は、本事業の調査地域のうち、本事業実施区域外の東側住宅地並びに七郷中学校が重複する。



表 4.6-30(10) 注目すべき種の予測及び検証結果

種名	予測(評価書)		事後調査	検証結果
	確認状況	予測内容		
底生動物 マルガタゲンゴロウ	・既往調査*での確認記録 [黒塗り]	・[黒塗り] 当該種の生息環境に与える影響はないと予測する。	・事後調査では確認できなかった。	・既往調査で確認されているものの、評価時の現地調査、事後調査を含めて事業実施区域とその周辺では確認されなかった。ただし、当該確認地点に事業区域からの雨水排水はないため、予測のとおり、当該種の生息環境に与える影響はないと考えられる。

※既往調査：方法書に対する市長意見を踏まえ、隣接する「仙台市荒井東土地区画整理事業環境影響評価書（仙台市荒井東土地区画整理組合 2010）」の調査結果を引用したもの。同評価書の調査地域は、本事業の調査地域のうち、本事業実施区域外の東側住宅地並びに七郷中学校が重複する。

#### 4.6.3. 追加の環境保全措置の検討

事業実施区域は、公園や道路整備され、戸建て住宅等の建造物が立地し、実施以前の水田環境は消失した。しかしながら、事後調査では、事業実施区域周辺では、評価書時と同程度の生物種が確認され、事業実施区域内においても、コウモリ類、スズメやムクドリ等の都市環境に生息する鳥類、草地に生息する昆虫類が確認されている。これは、公園や道路整備において「郷土種や潜在自然植生に該当する種の植栽」を行うことにより、既成市街地や事業実施区域周辺の水田環境等との緑のネットワークが形成されつつある効果であると考えられる。

以上のことから、追加の環境保全措置を講じる必要はないものと判断した。

## 4.7. 生態系

### 4.7.1 存在による影響

#### (1) 調査項目

水田における生態系についての影響を把握するため、表 4.7-1 に項目に示す調査を実施した。

表 4.7-1 調査項目

項目		対象種	調査時期
湛水期	両生類	ニホンアカガエル(典型性)	夏季・春季
	鳥類	サギ類(上位性)	
非湛水期	鳥類	ミヤマガラス(典型性)	秋季・冬季
		チョウゲンボウ(上位性)	

#### (2) 調査時期

調査は、表 4.7-2 に示すとおりに実施した。

表 4.7-2 調査時期

調査時期	調査時期
冬季	平成 28 年 1 月 25 日
春季	平成 28 年 5 月 12 日～13 日
夏季	平成 28 年 8 月 8 日～9 日
秋季	平成 28 年 10 月 4 日

#### (3) 調査地域及び調査地点

調査地域は、生態系に影響が想定される地域とし、図 4.5-1 に示すとおり、植物、動物の調査地域に準じ、事業実施区域境界より 200m の範囲とした。

#### (4) 調査方法

##### ①両生類

調査範囲内を踏査し、幼体や成体、鳴き声のほか卵囊や幼生の確認や繁殖状況にも留意し、調査を実施した。

##### ②鳥類

ラインセンサス調査、定点調査、任意調査により、確認位置、個体数、確認状況を記録した。

(5) 調査結果

①ニホンアカガエル（湛水期・典型性）

ニホンアカガエルは、[redacted]  
[redacted]ニホンアカガエルの確認状況を図 4.7-1 に示す

②サギ類（湛水期・上位性）

サギ類は、[redacted]調査範囲内においてゴイサギ [redacted]、ササゴイ [redacted]、ダイサギ [redacted]、チュウサギ [redacted]、コサギ [redacted] 確認された。調査範囲外の確認地点数は、ゴイサギ [redacted]、ササゴイ [redacted]、ダイサギ [redacted]、チュウサギ [redacted]、コサギ [redacted]、アオサギ 1 地点 2 個体であった。サギ類の確認状況を図 4.7-2 に示す。

③ミヤマガラス（非湛水期・典型性）

ミヤマガラスは、[redacted]  
[redacted]が確認された。ただし、これらは異なる時間に確認された同一の群れであり、群れの規模は最大時で約 5,200 個体、この群れの範囲は事業実施区域内から調査範囲外まで広く確認された。当該種のほとんどの個体は [redacted] で採餌を行っていたが、事業実施区域内では、[redacted] で休息を行っていた。ミヤマガラスの確認状況を図 4.7-3 に示す。

④チョウゲンボウ（非湛水期・上位性）

チョウゲンボウは、[redacted]の確認がありそのうち 1 回は [redacted] 上空を通過した。[redacted] 確認し、採餌行動も確認した。チョウゲンボウの確認状況を図 4.7-4 に示す。



※注目すべき種の保護のため非公開とした。

凡 例




-  事業実施区域
-  調査地域及び予測地域
-  確認位置



図 4.7-1 ニホンアカガエル確認位置図

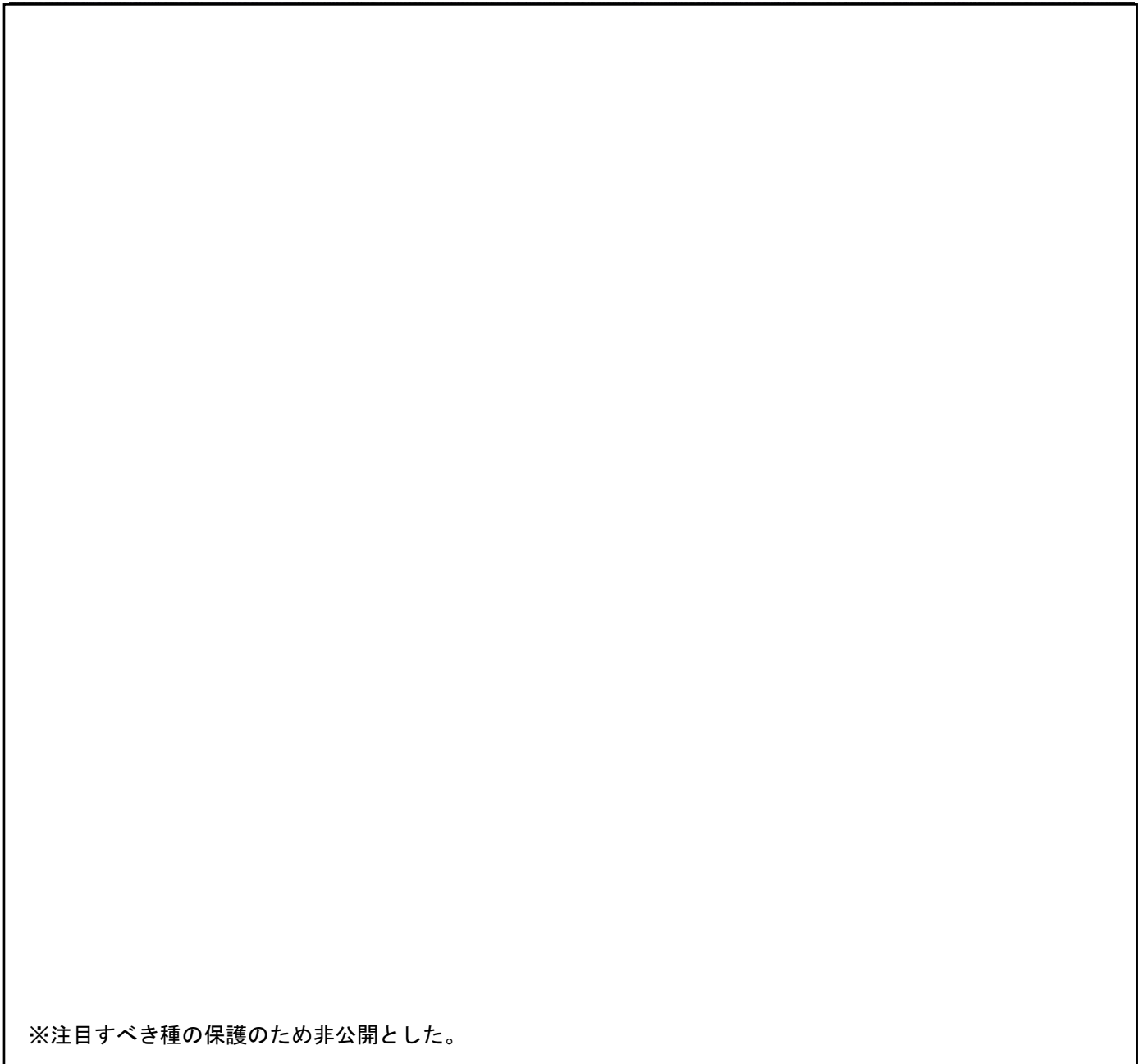
※注目すべき種の保護のため非公開とした。

凡 例

-  事業実施区域
-  調査地域及び予測地域
-  確認位置
-  ゴイサギ
-  ササゴイ
-  ダイサギ
-  チュウサギ
-  コサギ
-  アオサギ






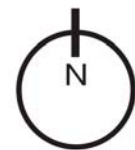
図 4.7-2 サギ類確認位置図



※注目すべき種の保護のため非公開とした。

凡 例

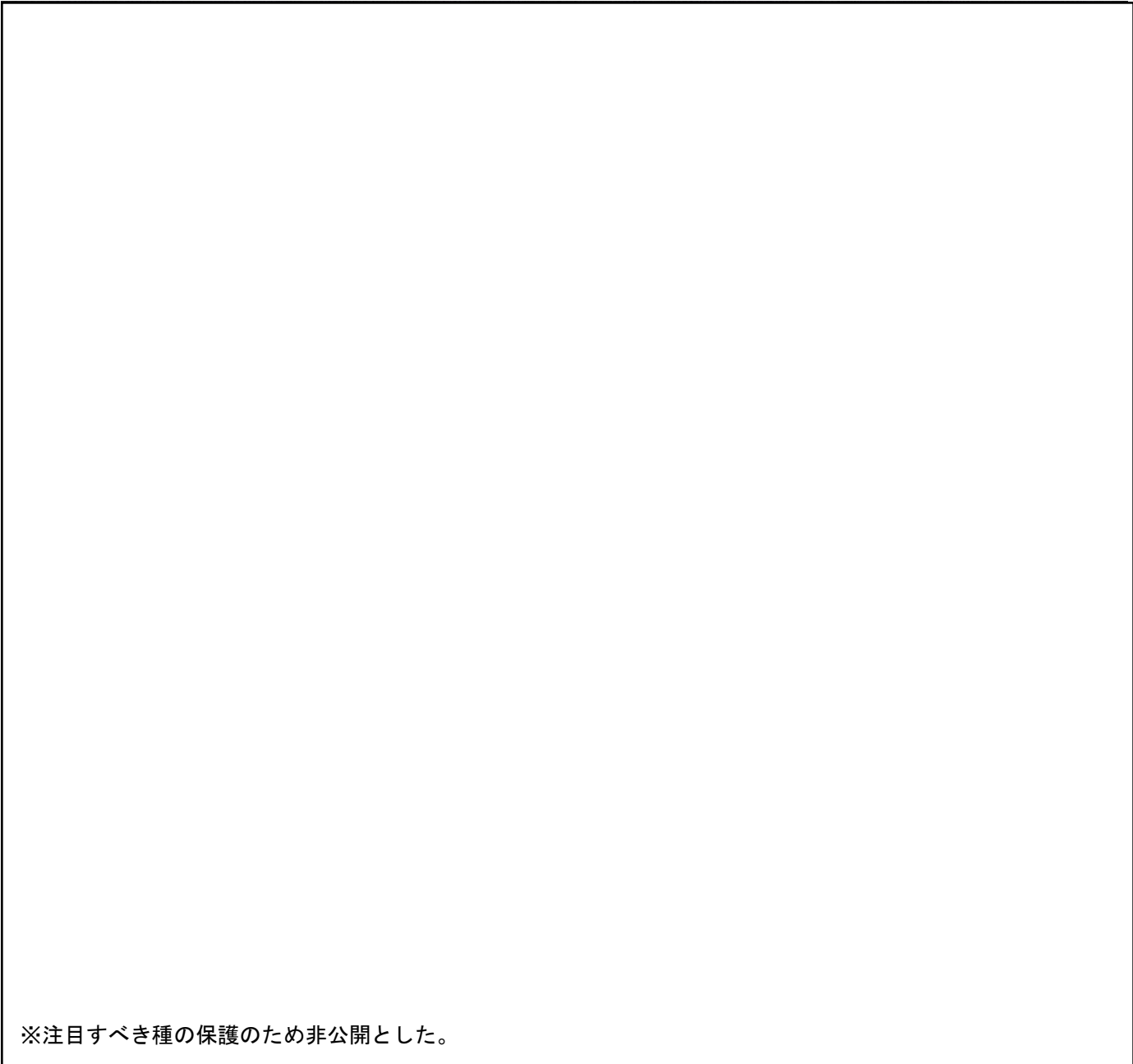
-  事業実施区域
-  調査地域及び予測地域
-  確認位置






縮尺 1/25,000

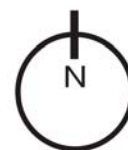


図 4.7-3 ミヤマガラス確認位置図



凡 例

-  事業実施区域
-  調査地域及び予測地域
-  確認位置



縮尺 1/25,000



図 4.7-4 チョウゲンボウ確認位置図

#### 4.7.2. 予測結果と調査結果の比較

生態系に係る指標種について、評価書における予測及び事後調査による検証結果を表4.7-3(1)～(2)に示す。

表 4.7-3(1) 指標種の予測及び検証結果

##### 【 湛水期 】

種 名	予 測	事後調査	検証結果
典型性 ニホンアカガエル 両生類	・事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した生息環境の回復は見込みにくいと予測する。しかし、事業実施区域南側は水田環境と接しているため、戸建て住宅の庭先等を生活の場の一部とする可能性もあると予測する。	・	・  確認されており、今後、周辺からの移動等により、戸建て住宅の庭先等を利用する可能性も考えられる。
上位性 サギ類 鳥類	・事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域において当該種に適した採餌・休息環境の回復は見込めないと予測する。	・	・  でも採餌、休息している個体を確認したことから予測の通り、事業の実施による影響はほとんどなかったと考えられる。



表 4. 7-3(2) 指標種の予測及び検証結果

【 非湛水期 】

種 名	予 測	事後調査	検証結果
典型性 ミヤマガラス 鳥類	・事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した採餌・休息環境の回復は見込めないと予測する。	・ [redacted]	・ [redacted] 周辺地域で当該種と混群を形成していたカラス類とともに、[redacted] で休息していた。周辺には採餌環境が十分に残っており、今後も同様の利用が想定される。
上位性 チョウゲンボウ 鳥類	・事業実施区域内は、公園や道路整備とともに、将来的には戸建て住宅等の建造物が立地する。そのため、事業実施区域内において当該種に適した狩りや採餌環境の回復は見込めないと予測する。	・冬季に [redacted] 上空を [redacted] 通過する 1 個体と、秋季に [redacted] を飛行する 1 個体を確認した。 ・ [redacted] で冬季に 2 個体、秋季に 1 個体。 [redacted] で飛行する 1 個体。 [redacted] で採餌を行う 1 個体を確認した。	・事後調査の結果、 [redacted] 上空を通過する個体の確認はあったものの、採餌行動の確認はなかった。予測のとおり、事業実施区域内の採餌環境は消失したが、 [redacted] では採餌を行っており、利用が継続していることを確認した。

4. 7. 3. 追加の環境保全措置の検討

事業実施区域内は、公園や道路が整備され、また、戸建て住宅等の建造物が立地したことにより、予測のとおり、地域の上位種であるサギ類、チョウゲンボウ、典型種であるニホンアカガエルやミヤマガラスの採餌、休息等に適した環境が変化・消失している。しかしながら、事業実施区域周辺の水田環境に変化はなく、これらの種が継続して利用していることを確認した。公園や道路整備において「郷土種や潜在自然植生に該当する種の植栽」を行うことにより、既成市街地や事業実施区域周辺の水田環境等との緑のネットワークが形成され、動物種によっては今後事業実施区域内の利用も期待される。以上のことから、追加の環境保全措置は講じる必要はないものと判断した。

## 4.8. 景観

### 4.8.1 存在による影響

#### (1) 調査項目

事業の結果、土地の形状の変更に伴い、事業実施区域周辺の景観資源に変化が生じた可能性があるため、眺望点からの眺望状況について調査した。

#### (2) 調査時期

夏季：平成28年7月20日（水）

冬季：平成29年1月25日（水）

#### (3) 調査地点

調査地点は、表4.8-1及び図4.8-1に示すとおりである。

表4.8-1 調査地点

地点番号	調査地点	事業実施区域からの距離
1	七郷小学校前歩道	約20m（近景域）
2	長喜城地区社前	約200m（近景域）
3	荒井十呂盤付近	約330m（近景域）
4	若林郵便局前	約1,250m（中景域）
5	仙台東高校正門付近	約1,800m（遠景域）

※1 近景域：事業実施区域の中心から半径800m程度までの範囲

中景域：事業実施区域の中心から半径800m～1,500m程度の範囲

遠景域：事業実施区域の中心から半径1,500mを超える範囲

※2 地点番号は、図4.8-1に対応する。

#### (4) 調査方法

眺望地点から事業実施区域方向について写真を撮影した。

撮影にあたっては、撮影高さ1.5mとし、焦点距離は32～35mmに設定した。

使用したカメラの情報は表4.8-2に示すとおりである。

表4.8-2 使用カメラの情報

項目	内容
カメラ機種名	ニコンD7100
レンズ名	ニコンAF-S DX NIKKOR 18-55mm f/3.5-5.6G VR
撮影高さ	1.5m



凡 例



事業実施区域



眺望点、予測地点



撮影方向



縮尺 1/25,000



図 4.8-1 景観調査眺望点位置図

(5) 調査結果

調査結果は表 4.8-3～表 4.8-7 に示すとおりである。

表 4.8-3 眺望景観の状況（地点 1：七郷小学校前）

夏季	
冬季	
眺望状況	<p>当該地点は、事業実施区域から北に約 20m 離れた地点であり、県道荒井荒町線を前景として事業実施区域の北側を眺望できる地点である。</p> <p>夏季調査時は、沿道型商業施設の工事が始まっていたが足場の隙間から、その隣接地である集合住宅と低層住宅地が視認できた。</p> <p>冬季調査時は、沿道型商業施設が視認できた。</p>

表 4.8-4 眺望景観の状況（地点 2：長喜城地区社前）

夏季	
冬季	
眺望状況	<p>当該地点は、事業実施区域から西に約 200m 離れた地点であり、市道長喜城霞目線と水田を前景として事業実施区域の西側を眺望できる地点である。</p> <p>夏季及び冬季の調査時は、事業実施区域の南西端に位置する復興公営住宅と七郷中学校の前面に立ち並ぶ低層の住宅が視認できた。</p>

表 4.8-5 眺望景観の状況（地点 3：荒井十呂盤付近）

<p>夏季</p>	
<p>冬季</p>	
<p>眺望状況</p>	<p>当該地点は、事業実施区域から南西に約 330m 離れた地点であり、水田と霞目雨水排水路を前景として事業実施区域の南側～南西側を眺望できる地点である。</p> <p>事後調査の時点で、調査地点から事業実施区域を眺望すると、本事業以外の工事現場の事務所が事業実施区域の景観の一部をさえぎる形となった。（調査結果写真左端）。夏季及び冬季の調査時は、事業実施区域の南端に位置する低層の住宅と住宅内の庭木が視認できた。</p>

表 4.8-6 眺望景観の状況（地点 4：若林郵便局前）

<p>夏季</p>	
<p>冬季</p>	
<p>眺望状況</p>	<p>当該地点は、事業実施区域から西に約 1,250m 離れた地点であり、夏季及び冬季の調査時は仙台市荒井西土地区画整理事業の住居等建築物が事業実施区域との間にあつたため、事業実施区域を視認できなかった。</p>

表 4.8-7 眺望景観の状況（地点 5：仙台東高校正門付近）

<p>夏季</p>	
<p>冬季</p>	
<p>眺望状況</p>	<p>当該地点は、事業実施区域から南に約 1,800m 離れた地点であり、水田と市道長喜城霞目線沿道を前景として事業実施区域の南側を眺望できる地点である。 夏季及び冬季の調査時は、事業実施区域の南西端に位置する復興公営住宅と南端の低層の住宅が視認できた。</p>

#### 4.8.2 予測結果と調査結果の比較

評価書における予測結果と事後調査結果の比較は表4.8-8に示すとおりである。

事業実施区域と眺望点の間に、視認を遮蔽するものが出来たため検証ができなかった「若林郵便局前」を除き、ほぼ評価書における予測のとおりであった。

表 4.8-8(1) 評価書における予測結果と事後調査結果による検証結果

眺望地点	予測結果	検証結果
七郷小学校前 歩道	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県道荒浜原町線を前景として、事業実施区域に建築予定の低層商業施設と2階建ての集合住宅等を視認することができる。</li> <li>・ 本事業の実施及びその後の市街地整備により、現況の田園風景から変化するが、幹線道路沿いの景観としては、一般的な景観に変化すると考える。</li> <li>・ 商業施設は、建物高さを9m程度に抑えるため、建物が出現することでスカイラインに著しい変化を及ぼすことはない。そのため、事業実施区域に形成される低層商業施設と2階建ての集合住宅等が加わることによる景観の変化の程度は小さいと予測する。</li> </ul>	<p>事後調査の結果、幹線道路沿いに低層の商業施設が視認された。評価書で予測したとおり、幹線道路沿いとしては一般的な景観に変化したことが確認された。</p>
長喜城地区 社前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 田園を前景として、奥の七郷小学校や七郷中学校等で形成される市街地の前面に、事業実施区域に形成される戸建て住宅群を視認することができる。</li> <li>・ 事業実施区域に形成される戸建て住宅群内の庭木や街路樹等が見える。</li> <li>・ 本事業の実施及びその後の市街地整備により、戸建て住宅群がより近くに出現するため、景観は変化するが、低層建物であるため、現状のスカイラインから大きく突出することはない。そのため、事業実施区域に形成される戸建て住宅群が加わることによる景観の変化の程度は小さいと予測する。</li> </ul>	<p>事後調査の結果、事業実施区域の南西端に復興公営住宅が、七郷中学校の前面に低層の集合住宅が視認された。今後は戸建ての住宅の建設が進む予定であり、田園を前景とした市街地景観が形成されつつあるが、これら建築物は低層であるため、評価書の予測どおり、事業実施前のスカイラインからは大きく変化していないと考えられる。</p>

表 4. 8-8(2) 予測結果と事後調査結果による検証結果

眺望地点	予測結果	検証結果
荒井十呂盤 付近	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒井土地区画整理事業地に形成されている既成の戸建て住宅群の前面に、事業実施区域に形成される戸建て住宅群を視認できる。</li> <li>・事業実施区域に形成される戸建て住宅群内の庭木や街路樹等が見える。</li> <li>・本事業の実施及びその後の市街地整備により、戸建て住宅群がより近くに出現するため、景観は変化するが、低層建物であるため、現状のスカイラインから大きく突出することはない。そのため、事業実施区域に形成される戸建て住宅群が加わることによる景観の変化の程度は小さいと予測する。</li> </ul>	<p>事後調査の結果、本事業以外の工事事務所等に一部が遮られていたものの、事業実施区域南端の戸建て住宅等が視認された。これら建築物は低層であるため、評価書の予測どおり、事業実施前のスカイラインからは大きく変化していないと考えられる。</p>
若林郵便局前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施区域に形成される戸建て住宅群は、事業実施区域西側に位置する居久根の南側（モニタージュ上では右側）に僅かに視認できる。</li> <li>・事業実施区域に形成される戸建て住宅群は低層建物であり、現状のスカイラインから突出することはないことから、事業実施区域に形成される戸建て住宅群が加わることによる景観の変化の程度は小さいと予測する。</li> </ul>	<p>事後調査の結果、仙台市荒井西土地区画整理事業地内に建設された戸建て住宅や低層商業施設に遮られ、事業実施区域は視認できなかったため、予測結果との比較はできなかった。</p>
仙台東高校 正門付近	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荒井土地区画整理事業地に形成されている既成の戸建て住宅群の前面に、事業実施区域に形成される戸建て住宅群を視認できる。</li> <li>・事業実施区域に形成される戸建て住宅群は低層建物であり、現状のスカイラインから突出することはないことから、事業実施区域に形成される戸建て住宅群が加わることによる景観の変化の程度は小さいと予測する。</li> </ul>	<p>事後調査の結果、田園を前景として、事業実施区域の復興公営住宅や低層の戸建て住宅等が視認されたが、これら建築物は低層であるため、評価書の予測どおり、事業実施前のスカイラインからは大きく変化していないと考えられる。</p>



表 4.8-10 眺望景観の状況 夏季（地点1：七郷小学校前）

<p>工事前</p>	
<p>予測結果（評価書）※</p>	
<p>事後調査結果</p>	

※予測結果は工事前の写真に事業計画から予測される建築物のフォトモンタージュを載せたものである。

表 4.8-9 眺望景観の状況 冬季（地点1：七郷小学校前）

工事前	
予測結果（評価書）※	
事後調査結果	




※予測結果は工事前の写真に事業計画から予測される建築物のフォトモンタージュを載せたものである。

表 4.8-12 眺望景観の状況 夏季（地点 2：長喜城地区社前）

<p>工事前</p>	
<p>予測結果（評価書）※1</p>	
<p>事後調査結果</p>	



※1：予測結果は工事前の写真に事業計画から予測される建築物のフォトモンタージュを載せたものである。  
 ※2：事業実施区域の南西端の復興公営住宅については、評価書公告以降に整備されることとなった（事後調査報告書（第1回）にて報告済み）

表 4.8-11 眺望景観の状況 冬季（地点 2：長喜城地区社前）

<p>工事前</p>	
<p>予測結果（評価書）※1</p>	
<p>事後調査結果</p>	

※1：予測結果は工事前の写真に事業計画から予測される建築物のフォトモンタージュを載せたものである。  
 ※2：事業実施区域の南西端の復興公営住宅については、評価書公告以降に整備されることとなった（事後調査報告書（第1回）にて報告済み）

表 4.8-14 眺望景観の状況 夏季（地点3：荒井十呂盤付近）

工事前	
予測結果（評価書）※	
事後調査結果	

※予測結果は工事前の写真に事業計画から予測される建築物のフォトモンタージュを載せたものである。

表 4.8-13 眺望景観の状況 冬季（地点3：荒井十呂盤付近）

<p>工事前</p>	
<p>予測結果（評価書）※</p>	
<p>事後調査結果</p>	

※予測結果は工事前の写真に事業計画から予測される建築物のフォトモンタージュを載せたものである。

表 4.8-16 眺望景観の状況 夏季（地点 4：若林郵便局前）

<p>工事前</p>	
<p>予測結果（評価書）※</p>	
<p>事後調査結果</p>	

※予測結果は工事前の写真に事業計画から予測される建築物のフォトモンタージュを載せたものである。




表 4.8-15 眺望景観の状況 冬季（地点 4：若林郵便局前）

<p>工事前</p>	
<p>予測結果（評価書）※</p>	
<p>事後調査結果</p>	

※予測結果は工事前の写真に事業計画から予測される建築物のフォトモンタージュを載せたものである。






表 4.8-18 眺望景観の状況 夏季（地点 5：仙台東高校正門付近）

工事前	
予測結果（評価書）※	
事後調査結果	

※予測結果は工事前の写真に事業計画から予測される建築物のフォトモンタージュを載せたものである。

表 4.8-17 眺望景観の状況 冬季（地点 5：仙台東高校正門付近）

工事前	
予測結果（評価書）※	
事後調査結果	

※予測結果は工事前の写真に事業計画から予測される建築物のフォトモンタージュを載せたものである。

## 4.9. 廃棄物

### 4.9.1 供用による影響（施設の稼働、人の居住・利用）

#### (1) 調査項目

供用開始後の事業実施区域内で発生する廃棄物量について調査した。

#### (2) 調査時期

##### ①居住により発生する廃棄物

平成 27 年度

##### ②商業施設から発生する廃棄物

平成 28 年 12 月 2 日（開店日）～平成 29 年 1 月 31 日（計 61 日間）

#### (3) 調査地域

調査地域は、事業実施区域内とした。

#### (4) 調査方法

##### ①居住により発生する廃棄物

一般廃棄物については「平成 27 年度一般廃棄物処理年報」から【家庭系一般廃棄物原単位】を調べ、【居住者人口】との積から事業実施区域から発生する【家庭系一般廃棄物発生量】を算出した。

$$\text{【家庭系一般廃棄物原単位】} \times \text{【居住者人口】} = \text{【家庭系一般廃棄物発生量】}$$

##### ②商業店舗から発生する廃棄物

商業施設から発生する廃棄物については、事業実施区域内の商業施設から廃棄物量を聞き取り調査し、整理した。

#### (5) 調査結果

##### ①居住により発生する廃棄物

居住により発生する廃棄物量は表 4.9-1 に示すとおりである。

家庭系一般廃棄物原単位は 607g/人・日、居住者人口は平成 29 年 1 月末現在で 1,100 人、家庭系一般廃棄物発生量は 667.7kg/日であった。

表 4.9-1 居住により発生する廃棄物量（平成 29 年 1 月末現在）

家庭系一般廃棄物原単位 (g/人・日)	居住者人口※ (人)	家庭系一般廃棄物発生量 (kg/日)
607	1,100	667.7

※居住者人口は平成 29 年 1 月末現在のものである。

## ②商業店舗から発生する廃棄物

商業店舗から発生する廃棄物量は表 4.9-2 に示すとおりである。

原単位は事業一般廃棄物のうち紙製廃棄物等が 0.079t/(千 m<sup>2</sup>×日)、生ごみ等は 0.005t/(千 m<sup>2</sup>×日)、その他の可燃性廃棄物等は 0.061t/(千 m<sup>2</sup>×日)、産業廃棄物のうちプラスチック製廃棄物等は 0.002t/(千 m<sup>2</sup>×日)、金属製廃棄物等は 0.000t/(千 m<sup>2</sup>×日)、ガラス製廃棄物等は発生しなかった。

表 4.9-2 商業店舗から発生する廃棄物量

	種類	発生量 (t/61日)	対象面積原単位 (千 m <sup>2</sup> )	原単位※ (t/(千 m <sup>2</sup> ×日))
事業系 一般廃棄物	紙製廃棄物等	23,180	4.833	0.079
	生ごみ等	1,600		0.005
	その他の可燃性廃棄物等	17,960		0.061
産業廃棄物	プラスチック製廃棄物等	565		0.002
	金属製廃棄物等	100		0.000
	ガラス製廃棄物等	0		—

※原単位において金属製廃棄物等は四捨五入の結果「0.000」、ガラス製廃棄物は発生していないため「—」と表記した。

## 4.9.2 予測結果と調査結果の比較

### (1) 居住により発生する廃棄物

居住により発生する廃棄物量についての予測結果と事後調査結果の比較は表 4.9-3 に示すとおりである。

家庭系一般廃棄物発生量が予測結果と比べ減少した理由として、家庭系一般廃棄物原単位が予測条件より小さくなったことと、家屋が未だ張り付き終わっていないため居住者人口が予測条件より少ないためである。

表 4.9-3 予測結果と事後調査結果の比較（居住により発生する廃棄物量）

区分	家庭系一般廃棄物原単位 (g/人・日)	人口※ (人)	家庭系一般廃棄物発生量 (kg/日)
予測結果	619	1,380	854.22
事後調査結果	607	1,100	667.7

※人口は予測が計画人口、事後調査が平成 29 年 1 月末現在の居住者の人口である。

(2) 商業店舗から発生する廃棄物

商業店舗から発生する廃棄物量についての評価書における予測条件と事後調査結果の比較は表 4.9-4 に示すとおりである。

予測条件と事後調査結果の比率は、その他の可燃物が 1.13 であった以外は、0.03～0.38 と事後調査結果が低い結果であった。予測条件と比べ事後調査結果の原単位が下がった原因は不明であるが、調査時期は店舗開店から 2 ヶ月間と間もなく、定常的な状態ではなかったことが要因の一つと考えられる。

4.9-4 評価書における予測条件と事後調査結果の比較（商業施設から発生する廃棄物量）

種類		原単位 <sup>※</sup> (t/ (千 m <sup>2</sup> ×日))		比率
		予測条件 (a)	事後調査結果 (b)	(b/a)
事業系 一般廃棄物	紙製廃棄物等	0.208	0.079	0.38
	生ごみ等	0.169	0.005	0.03
	その他の可燃性廃棄物等	0.054	0.061	1.13
産業廃棄物	プラスチック製廃棄物等	0.020	0.002	0.10
	金属製廃棄物等	0.007	0.000	0.05
	ガラス製廃棄物等	0.006	—	—

※原単位において金属製廃棄物等は四捨五入の結果「0.000」、ガラス製廃棄物は発生していないため「—」と表記した。

5. 事後調査の委託を受けた者の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地

名称：株式会社オオバ 東北支店

代表者の氏名：執行役員支店長 松本 健二

主たる事務所の所在地：宮城県仙台市青葉区二日町 14-4 オオバ東北ビル

6. その他

お問い合わせ先：仙台市荒井南土地区画整理組合

所在地：宮城県仙台市若林区荒井字遠藤西 107 番地

電話番号：022-253-6418